The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	戦後における元造船官の経歴に関する資料
Author(s)	沢井, 実
Citation	大阪大学経済学. 2016, 66(1), p. 44-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57204
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【資料】

戦後における元造船官の経歴に関する資料*

沢　井　　実†

はじめに

海軍艦艇の建造に当たって海軍造船官が大きな役割を果たした。造船官は技術士官である武官と海軍技師である文官に分かれた。造船官は，造兵，造機などの技術官とともに海軍技術官を構成した。1942 年 11 月には戦時編制として，従来の造船・造兵・造機などの呼称を廃止して，「技術」に統合した。また 38 年には短期現役制度が新設されたために武官の採用数が急増し，以後武官は永久服役士官と短期現役士官に分かれることになった。造船官に関する短期現役制度とは，大学あるいは高等工業学校で造船工学を学び，民間造船所などに就職した後，志願によって海軍に奉職し，原則として 2 年間の勤務の後，原勤務先に戻る制度であるが，なかにはその後ふたたび応召して海軍に勤務した者もいた。続いて 39 年からは文官から武官への転官が可能となったため，海軍技師から武官への転身の道が開けた。

1945 年 8 月 15 日に現役として海軍に在籍し，艦艇の造修業務に従事していた者は，**表 1** に示されているように，武官 350 名，文官 168 名，嘱託 4 名，合計 522 名であった。終戦前に離任した 9 名を加えた武官 359 名の内訳は永久服役 229 名，短期現役 130 名であり，出身校の内訳は東大 187 名，九大 49 名，阪大 40 名，横浜高等工業学校 64 名，大阪高等工業学校（工業専門学校）15 名，その他 4 名であった[1]。文官 168 名のうち 103 名は海軍技手養成所修了者であり，残りは帝大，高等工業学校卒業者などであった。

表 1　終戦時の現役造船官数

（人）

所轄別	武官	文官	嘱託	合計
海軍艦政本部	33	24		57
海軍技術研究所	11	11	3	25
横須賀海軍工廠	60	19		79
呉海軍工廠造船部ほか	62	22		84
呉海軍工廠造船実験部	3	9		12
佐世保海軍工廠	51	15		66
舞鶴海軍工廠	42	12		54
海軍艦政本部造船監督官関係	41	44		85
海軍工作部関係	33	9		42
艦隊・教官等	8			8
海軍航空本部関係	3	3		6
軍需省関係	2			2
海軍省関係	1		1	2
合計	350	168	4	522

［出所］（海軍）造船会・会員業績顕彰資料作成委員会編『太平洋戦争終結時における造船官の配置表』1988 年，2 頁。

終戦時現役であった造船官 522 名の所管別内訳の詳細を見たのが，**表 2－1～表 2－10** で

* 横浜国立大学工学部造船工学科名簿委員会編『横浜国立大学工学部造船（航空）工学科卒業生名簿』の閲覧については，横浜国立大学名誉教授・弘陵造船航空会会長平山次清先生にたいへんお世話になった。記して謝意を表したい。

† 南山大学経営学部教授，大阪大学名誉教授。

1 桜井清彦編『造船官の記録　戦後編』海軍造船会，2000 年，481 頁。

ある。同表には基本的に1951年と1959年の2時点における元造船官の就職先が示されている。終戦時に現役であった武官350名のうち戦後の詳しい経歴が判明する166名に終戦前に海軍を離任していた武官，さらに若干の文官を加えた元造船官202名の戦後の軌跡を示したのが**表3－1～表3－7**である。

元造船官の戦後の帰趨については，元造船官の「大部分が民間の造船業に吸収された[2]」との指摘があるが，**表2－1～表2－10**および**表3－1～表3－7**から判断するかぎり，これは就職先として民間造船業をやや過大評価しているようにみえる。民間造船所が最大の就職先であったことは明らかであるが，防衛庁・海上自衛隊，横須賀米海軍艦船修理廠（Ship Repair Facility：SRF），鉄道技術研究所，海上保安庁，大学関係も無視できない。民間造船所勤務の場合も海上自衛隊用の艦艇建造にたずさわる者も例外的存在ではなく，元造船官が民間造船企業でいかなる業務を担ったかも検討されるべきであろう。また海軍から民間部門への移動は決して円滑に進んだ訳ではなかった。結果的に民間造船所に職場を見つけた者のなかにも戦後のブランク，さまざまな職業経験をへて民間造船所に安定した職場を見出した者が数多くいた。元造船官が「民間の造船業に吸収されるプロセス」はきわめて多様であった。

終戦時に海軍艦政本部部員・技術少佐であり，戦後は日立造船に勤務した小野塚一郎は終戦直後の状況を以下のように回顧している[3]。

> 終戦に伴い当然のこととして，造船官全員が海軍を離れることになった。海軍に在勤中の短期現役の方たちは，直ちに原則として原勤務先に戻ったが，海軍プロパーの方たちは全部失業となった。そして，出来たらその技術力を生かす所に職を求めたかったが，その辺のことは必ずしもうまく（い－引用者補足）かなったと云うのが，実情であった。
>
> 民間造船所側としても大変な事情にあった。極度の繁忙から最低の操業に変った。最低と云うよりゼロと云った方がよかったかも知れない。そして進駐軍の造船に対する態度も判らないし，前途の見透しを立てることも困難であった。従って，造船所のなかには，そこの出身の短現の方の復帰を必ずしも歓迎しない所もあったが，無理もない所でもある。然し若干の造船所では，造船官の人柄と技術を惜しんで，少数或いは小グループを新たに採用されておる。
>
> その後昭和二十三年頃になると，進駐軍の意向も大体読めるようになったし，また輸出船にその企業の活路を求めうる可能性も出て来たので，若干の造船官が民間の会社などに，造船技術者として職を得る事が出来るようになった。この場合でも前述の造船官としての同窓会的な構造が，それなりに役立っていたように推察される。

造船官一人ひとりの戦後の歩みを安易に類型化することはできないが，一方で彼らの多くが戦後も深い横の繋がり維持しつつ困難な戦後を切り開いていったことも事実である。占領下の1951年には「造船技術者近況」と題する名簿が作成され，そこには約400名の元造船官の氏名，住所，勤務先が記されていた。55年の「造船会会員名簿」では約600名が収録されていた[4]。しかし，同時に関東地区在住の会員200名に造船会大会への参加を呼びかけたところ，30名しか集まらなかったという現実にも留意しなければならない。

---

[2] 片山信『日本の造船業』日本工業出版，1970年，142頁。

[3] 小野塚一郎「海軍技術物語（6）－造船官の技術と人脈－」（『水交』第368号，1984年10月）22頁。

[4] 前掲『造船官の記録　戦後編』472頁。

表２－１　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51 年勤務先	59・60・68 年勤務先
海軍艦政本部	福田　啓二				1890	技術中将	艦本技術監兼技術会議議員	東大	1914	日本海事協会嘱託	日本海事協会嘱託
関係・武官	江崎　岩吉				1890	技術中将	艦本第四部長兼技術会議議員	東大	1917		日立造船・技術顧問
	片山　有樹				1894	技術少将	艦本出仕（基本計画主任）兼技術会議議員兼東大教授	東大	1919		防衛庁技術研究本部嘱託（68 年）
	中村　小四郎				1897	技術大佐	艦本部員兼技術会議議員	東大	1922		
	牧野　茂				1902	技術大佐	艦本部員（設計主任，第六班長）兼技術会議議員，参謀本部附	東大	1925	国際船舶工務所常務取締役	三菱造船船舶事業本部顧問（60 年）
	西島　亮二				1902	技術大佐	艦本部員（首席部員）兼軍需監理官	九大	1926		呉造船所相談役（68 年）
	大瀧　大輔				1902	技術大佐	艦本部員（第一，二，三，四班長）兼技研所員，第二技術廠部員，技術会議議員	九大	1927		浦賀船渠常務・艦艇営業部長
	村田　益太郎				1906	中佐	艦本総務部部員兼第四部部員	海兵 55 期，九大	1940	SRF	横須賀米海軍基地 SRF 顧問
	山口　宗夫	○			1907	技術中佐	艦本部員兼技術会議議員（予算部員）	九大	1930	西日本重工業	三菱造船技術部次長（60 年）
	遠山　光一	○			1908	技術中佐	艦本部員兼技術会議議員	東大	1932	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管取締役
	小見川　信	○		○	1910	技術中佐	艦本部員（材料班）	東大	1933	みさき産業代表取締役社長	みさき産業代表取締役社長
	遠山　嘉雄	○			1911	技術中佐	艦本部員（第七班長）	東大	1934	藤永田造船東京事務所	藤永田造船所船舶営業部長（60 年）
	埴田　清勝	○			1912	技術中佐	艦本部員兼技研所員，第二技術廠部員，技術会議議員	東大	1935	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所設計部長
	寺田　明	○			1911	技術少佐	艦本部員（第五班長），技術会議議員	東大	1935	日本復興建材	新三菱重工業神戸造船所所長付（60 年）
	杉　一夫				1911	技術少佐	艦本部員，技術会議議員兼軍需省軍需官	阪大	1935		
	福井　経彦	○		○	1909	技術少佐	艦本部員（材料班）	九大	1934	東造船	東造船取締役
	蔵田　雅彦	○			1913	技術少佐	艦本部員	東大	1936	函館ドック（設計課）	
	吉田　隆	○			1912	技術少佐	艦本部員兼技研所員兼第二技術廠部員	九大	1936	アメリカ船級協会検査員	飯野重工業造船部
	小野塚　一郎	○		○	1911	技術少佐	艦本部員（商船班長）	東大	1935	日立造船東京事務所	日立造船調査部長
	西田　正典	○			1912	技術少佐	艦本部員	九大	1937	日立造船向島工場造船課	日立造船向島工場工務部長（60 年）
	田中(山下)輝男	○			1913	技術少佐	艦本部員（商船班）兼軍令部出仕海運総監部附	東大	1939	播磨造船所	NBC 呉造船部業務部長
	小倉　龍朗	○			1916	技術少佐	艦本部員（庶務部員）	九大	1939	熊本造船所大内工場	防衛庁海上幕僚統監部艦船課
	桜井　清彦	○			1918	技術少佐	艦本部員	東大	1940	石川島重工業第二工場	石川島重工業第二工場造船部長
	渡辺　英一	○			1916	技術少佐	艦本出仕（第六班）	東大	1940	佐世保船舶工業東京本社技術部	防衛庁技術研究本部
	松下　雄一	○	○		1913	技術大尉	艦本出仕（商船班）	東大	1939	西日本重工業長崎造船所	三菱造船下関造船所設計部造船設計課長
	蛎崎　広蔵		○		1915	技術大尉	艦本出仕，東京監理官	阪大	1939		
	岩崎　正亮		○		1913	技術大尉	艦本出仕，東京監理官兼艦本造船監督官	東大	1937	東日本重工業横浜造船所	三菱日本重工業横浜造船所
	広瀬　達三		○		1918	技術大尉	艦本出仕，技研所員	阪大	1941	大阪大学助教授	大阪大学工学部助教授
	野上　秀喜		○		1918	技術大尉	艦本出仕，技研所員	九大	1941		
	田坂　鋭一		○		1920	技術大尉	艦本出仕（材料班）	東大	1942	海上保安庁造船課長	海上保安庁船舶技術部技術課
	中山　嘉彦	○	○		1917	技術大尉	艦本出仕（材料班）	横浜	1941	ミナト製作所取締役工場長	京葉商工代表取締役
	岩崎　三郎		○		1920	技術大尉	艦本出仕（第七班）	阪大	1943	日立造船本社設計部	日立造船造船設計部
	高木　敬太郎	○	○		1923	技術大尉	艦本出仕，技研所員	横浜	1942	石川島重工業造船部	石川島重工業造船設計部艦艇基本設計課長
海軍艦政本部	小副川　要作				1891	高等官三等	艦本附総務部部員，技術会議議員，施設本部部員	旅順工科学堂	1913		
関係・文官	但馬　平司				1891	高等官三等	艦本部員兼艦本附技研部員	物理学校	1916		
	今井　信男				1890	高等官三等	艦本部員	海軍工手学校	1923		
	小倉　健夫				1902	高等官四等	艦本附第四部兼総務部第五課	東大	1928		
	宮井　忠蔵				1898	高等官四等	艦本附	技養	1922		
	斎藤　七五郎				1900	高等官四等	艦本附	大阪高工	1920		
	高瀬　良次郎				1894	高等官四等	艦本附（第四部兼第七部）	技養	1922		
	御鳴　要				1894	高等官四等	艦本附	技養	1923		
	小山　捷				1904	高等官四等	艦本部員	東大	1929	コヤマボート設計社	東造船常務取締役
	丸石山　三郎				1891	高等官四等	艦本附	工手学校	1925		
	久保　秀次郎				1892	高等官四等	艦本附	工手学校	1923		
	高橋　惣兵衛				1894	高等官四等	艦本部員	技養	1923		前川製作所（68 年）
	山本　五郎				1899	高等官四等	艦本附	技養	1924		没（68 年）
	山崎　宗一				1894	高等官五等	艦本部員兼技術会議議員	技養	1924		長岡組（68 年）
	大神　匡				1899	高等官五等	艦本附	技養	1923		
	井上　長三郎				1909	高等官六等	艦本附	仙台高工	1931		
	大野　虎雄				1905	高等官六等	艦本附	技養	1930		没（68 年）
	田井　虎一				1902	高等官六等	艦本附	技養	1926		没（68 年）
	牧野　義冨				1904	高等官七等	艦本部員	技養	1930		三菱重工業・本社（68 年）
	山下　省三郎				1906	高等官七等	艦本附	技養	1931		米海軍横須賀基地 S.R.F（68 年）
	今安　繁夫				1906	高等官七等	艦本附	技養	1931		舞鶴機械工業・取締役（生産担当）（68 年）
	岩谷　平七				1889	高等官七等	艦本附	工手学校	1925		
	田部　吉男				1913	高等官七等	艦本附	東京高等工芸（木材）	1934		
	村上　久				1910	高等官七等	艦本附（第二班）	技養	1935		大倉船舶工業・造船部長（68 年）

［出所］　海軍造船会会員業績顕彰資料作成委員会編『太平洋戦争終結時における造船官の配置表』1988 年，10～27 頁，学士会編『会員氏名録』昭和 26・27 年（1951 年），昭和 34・35 年用（1959 年），ダイヤモンド社編『ダイヤモンド会社職員録』1960 年，横浜国立大学工学部造船工学科名簿委員会編『横浜国立大学工学部造船（航空）工学科卒業生名簿』第 4 号，1962 年 8 月現在。造船会編『造船官の記録』同会，1966 年，652 － 664 頁，技養同窓会編『海軍技手養成所卒業生名簿』第 5 回，1968 年，福田烈追悼集刊行会編『造船技術は勝てり』1968 年，桜井清彦編『造船官の記録　戦後編』海軍造船会，2000 年。

（注）　(1)「没（68 年）」は 1968 年時点で亡くなっていることを示す。「1951 年勤務先」に「(62 年)」が付されている場合は，62 年時点での勤務先。
(2) 1959・60・68 年勤務先で年次表示のないものは 59 年現在。
(3)「別」欄に○印のある者は，別表（表３－１～表３－７）に経歴の詳細が示されている者。
(4)「短」欄に○印のある者は短期現役，「転」欄に○印のある者は文官から技術士官への転官を示す。

表２－２　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51 年勤務先	59・60・68 年勤務先
海軍技術研究所関係・武官	出淵　巽				1895	技術少将	技研造船研究部長兼技術会議議員，東大教授	東大	1920		
	岡本　方行				1899	技術大佐	技研所員兼艦本総務部第六課長兼技術会議議員，大学校教官	東大	1925		極洋捕鯨会社監査役
	近藤　忠夫	○			1904	技術中佐	技研造船研究部第一科主任，艦本出仕，東大助教授	東大	1930		呉造船所取締役（60 年）
	大平　正夫				1904	技術中佐	技研造船研究部部員兼業務主任兼第三科主任	九大	1928		
	中島　宣彦	○			1915	技術少佐	技研造船研究部部員	東大	1938	弁理士	弁理士
	村中　穣		○	○	1913	技術少佐	技研造船研究部部員	広島文理大	1938		
	橋本　香一	○		○	1919	技術大尉	技研造船研究部部員（第三科）	東大	1941	鉄道技術研究所鋼構造研究室	国鉄広島鉄道管理局船舶部長
	篠田　仁吉	○			1921	技術大尉	技研造船研究部部員	東大	1943	鉄道技術研究所防災研究室	鉄道技術研究所連絡船研究室
	羽田野　哲郎		○		1921	技術大尉	技研造船研究部部員	九大	1943		
	向山　政一				1922	技術中尉	技研造船研究部副部員	東大	1944		
	本田　脩三	○	○		1923	技術中尉	技研造船研究部副部員	横浜	1943	日立造船因島工場	日立造船因島工場
海軍技術研究所関係・文官	赤崎　繁	○			1898	予備役技術大佐	海軍省嘱託技研勤務（阪大教授）	東大	1922	東洋電極工業取締役	大阪府立大学工学部長
	松山　武秀				1896		海軍省嘱託技研勤務（藤原工大教授）	東大	1919		長井江崎特許事務所技術顧問
	木下　昌雄	○			1914	予備役技術大尉	海軍省嘱託技研勤務（東大助教授）	東大	1937	日立造船技術研究所	日立造船技術研究所長
	池上　作太郎				1887	高等官三等	技研造船研究部部員	工手学校	1928		
	佐藤　正彦				1907	高等官四等	技研造船研究部部員	東大	1932		日本海事協会技術研究所
	大津　義徳				1909	高等官五等	技研造船研究部部員	東大	1934	水産庁船体研究室	水産庁漁船研究室長
	有吉　金太				1897	高等官五等	技研造船研究部部員	技養	1926		日本包装協会顧問（68 年）
	高橋　高蔵				1902	高等官五等	技研造船研究部部員	技養	1926		石川島播磨重工業・船殻事業部（68 年）
	鬼頭　史城				1902	高等官五等	技研所員（造船研究部勤務），兼艦本部員（第五部）	名古屋電気学校	1918		
	中本　誠				1913	高等官七等	技研附造船研究部	横浜	1935	没（62 年）	
	杉原　喜蔵				1905	高等官七等	技研附造船研究部	物理学校	1934		
	神田　文四郎				1905	高等官七等	技研附造船研究部	技養	1931		
	松下　福一				1907	高等官七等	技研附造船研究部	技養	1932		林兼造船・嘱託（68 年）
	宇根　繁				1911	高等官七等	技研附兼艦本出仕	横浜（応化）	1934		

表２－３　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
横須賀海軍工廠・武官	矢ヶ崎　正経				1895	技術少将	横廠造船部長	東大	1920		藤永田造船所顧問・艦艇技術部長（60年）
	岩崎　正英	○			1899	技術大佐	横廠出仕兼造船部部員（川崎分工場）	九大	1924	石川島重工業	石川島重工業（60年）
	玉崎　坦	○			1899	技術大佐	横廠造船部部員（作業主任）兼高座工廠飛行機部部員（東京，広島監理官）	東大	1925	名古屋造船常務取締役	日本鋼管嘱託
	武冨　猪一				1902	技術大佐	横廠総務部部員兼造船部部員	九大	1926	武冨産業会社社長	
	前田　龍男				1903	技術大佐	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部作業主任	東大	1928		前田熱工業
	生野　勝郎				1904	技術大佐	横廠造船部部員（船殻主任），東京監理官	東大	1928		
	溝口　三雄	○		○	1903	技術中佐	横廠造船部部員（艤装主任）	九大	1930	日本温湿科学研究所創立	日本温湿科学研究所社長
	中村　常雄				1910	技術中佐	横廠造船部部員（広島監理官）兼航海学校教官	東大	1934	佐世保船舶工業船舶造修部	佐世保船舶工業取締役
	矢野　鎮雄			○	1912	技術少佐	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部部員（東京監理官，広島監理官）	九大	1935		
	中川　勝也				1912	技術少佐	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部部員	九大	1937		
	橘　弘毅	○			1914	技術少佐	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部部員	東大	1938	American Bureau of Shipping	American Bureau of Shipping
	内田　勇	○	○		1913	技術少佐	横廠造船部部員兼艦本造船監督官（東京監理官）	東大	1936	三井船舶	三井船舶海務部造船課長
	生田　実	○			1916	技術少佐	横廠造船部部員	横浜	1938	吾妻計器製作所社長	吾妻計器製作所社長
	近藤　武之助				1914	技術少佐	横廠造船部部員	東大	1940		
	浮田　基信	○			1917	技術少佐	横廠潜水艦部部員兼造船部部員	東大	1941	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船鉄工工作課長
	小林　勝二	○			1916	技術少佐	横廠造船部部員	東大	1941	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所
	塩谷　晋				1918	技術大尉	横廠造船部部員	九大	1941		
	清水　龍男	○			1916	技術大尉	横廠造船部部員兼機雷実験部部員	阪大	1941	東造船	大洋漁業船舶部
	堀田　知道				1918	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1941		横須賀米海軍基地SRF顧問
	大賀　秀輝	○			1919	技術大尉	横廠造船部部員	九大	1941	佐世保船舶工業福岡分工場	佐世保船舶工業佐世保造船所外業部艤装課長
	金子　一夫	○	○		1920	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1941	西日本重工業神戸造船所	新三菱重工業神戸造船所艦艤装課長
	溝問　泰夫		○		1916	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1941		
	長谷川　謙浩		○		1916	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1941		
	誉田　義道				1920	技術大尉	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部部員	東大	1942		
	片山　信	○			1918	技術大尉	横廠造船部部員（蛎ケ浦船殻工場）	東大	1942	藤永田造船所	藤永田造船所基本設計課長
	宮下　義一	○	○		1918	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1942	日立造船桜島工場修繕課	日立造船神奈川工場造船課長（60年）
	藤野　宏	○			1922	技術大尉	横廠造船部部員兼高座工廠飛行機部部員	東大	1943	日立造船東京事務所船舶課	日立造船船舶営業部業務課長（60年）
	垂水　保之	○			1920	技術大尉	横廠造船部部員	東大	1943	東日本重工業横浜造船所	三菱日本重工業横浜造船所
	平石　敏雄				1919	技術大尉	横廠造船部部員	阪大	1943	日之出木工有限会社	日之出木工・重役
	山形　聡	○			1922	技術大尉	横廠造船部部員	九大	1943	佐世保船舶工業	佐世保船舶工業艦艇設計部造船課長
	田中　章	○	○		1921	技術大尉	横廠造船部部員	阪大	1943	中日本重工業神戸造船所	新三菱重工業神戸造船所設計課
	井本　武	○	○		1921	技術大尉	横廠造船部部員	九大	1943	林兼造船下関造船所	林兼造船
	小沢　雅男	○			1921	技術大尉	横廠造船部部員	横浜	1942	石川島重工業造船部設計課	石川島重工業・予算第４課長（60年）
	石橋　郁三	○	○		1922	技術大尉	横廠造船部部員	横浜	1942	文化興業専務取締役	文化興業専務取締役
	横田　健	○			1921	技術中尉	横廠造船部副部員	東大	1944	播磨造船所	播磨造船所
	布施　秀三（島）	○			1921	技術中尉	横廠造船部副部員	阪大	1944	藤永田造船所	藤永田造船所
	伊東　弘次				1922	技術中尉	横廠造船部副部員	九大	1944		
	山川　新二郎		○		1921	技術中尉	横廠造船部副部員	東大	1944		
	白谷　太平（田中）	○			1921	技術中尉	横廠造船部副部員	東大	1944	名古屋造船	名古屋造船造船部船殻課長
	山碕　茂				1921	技術中尉	横廠造船部副部員	東大	1944		
	柴柳　徹郎				1921	技術中尉	横廠造船部副部員	東大	1944	日立造船桜島工場	日立造船桜島工場造船部
	井上　勝		○		1923	技術中尉	横廠造船部副部員	阪大	1944	中日本重工業神戸造船所	新三菱重工業神戸造船所
	佐伯　広助		○		1921	技術中尉	横廠造船部副部員	九大	1944	大丸造船鉄工	東海海運局清水支局検査課長
	吉川　次郎	○	○		1921	技術中尉	横須賀鎮守府附	阪大	1944	三井造船玉野製作所	三井造船玉野造船所造船工作課
	小谷　淳	○	○		1921	技術中尉	横須賀鎮守府附	東大	1944	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所
	岡田　一喜	○			1923	技術中尉	横廠造船部副部員（東京監理官）	横浜	1943	南国特殊造船	日立造船神奈川工場造船課
	奥村　順郎				1924	技術中尉	横廠造船部副部員	横浜	1943	新三菱重工業神戸造船所（62年）	
	黒田　良治	○	○		1924	技術中尉	横廠造船部副部員	横浜	1943	造船木工業自営	運輸省
	佐藤　勝巳		○		1925	技術中尉	横廠造船部副部員兼造兵部副部員	横浜	1943	静岡県富士土木工営事務所吉永工営所（62年）	
	板東　彦磨				1923	技術中尉	横須賀鎮守府附	横浜	1943	工務監督（62年）	
	石田　政雄	○			1924	技術少尉	横廠造船部副部員	横浜	1944	北越工業	北越工業取締役工場次長
	田中　利夫	○			1923	技術少尉	横廠造船部副部員	大阪工業専門学校	1944	日立造船	日立造船
	三村　英郎				1923	技術少尉	横廠造船部副部員	大阪工業専門学校	1944		
	吉村　治	○	○		1925	技術少尉	横廠造船部副部員	大阪工業専門学校	1944	近畿日本鉄道	近畿日本鉄道検査課長
	坂田　得蔵		○		1924	技術少尉	横廠造船部副部員	横浜	1944	三菱造船広島造船所（62年）	
	甲木　利男（真竹）	○			1925	技術少尉	横廠造船部副部員	横浜	1944	県立工業高等学校（長崎市）	県立工業高等学校（長崎市）
	養生田　正夫	○			1923	技術少尉	横廠造船部副部員	横浜	1944	日本鋼管鶴見造船所（62年）	日本鋼管鶴見造船所（62年）
	木村　弘	○	○		1924	技術少尉	横廠潜水艦部副部員	大阪工業専門学校	1944	三保造船所	三保造船所
	高橋　通雄				1920	見習尉官	横須賀鎮守府附	東大	1943		
	葦原　健					見習尉官	横須賀鎮守府附	九大	1944		
横須賀海軍工廠・文官	中村　譲				1893	高等官三等	横廠造船部部員（設計主任）	技養	1922		アジア船舶工業社・取締役技師長（68年）
	安田　千代次				1897	高等官四等	横廠附造船部部員	技養	1922		丸大工業（68年）
	谷道　広海				1906	高等官四等	横廠出仕（川崎分工場）	東大	1932	大島鉄工所	日本温湿科学研究所
	宮川　秀人				1901	高等官四等	横廠附	熊本高工（採冶）	1923		
	今井　芳之助				1883	高等官五等	横廠附	高等小学校	1899		
	稲葉　知治				1909	高等官五等	横廠附兼高座工廠附	横浜（機）	1930		
	藤井　三郎				1906	高等官六等	横廠附	早大（電）	1932		
	三浦　正男				1902	高等官六等	横廠附	技養	1926		三正工業（68年）
	中田　泰三				1887	高等官六等	横廠附	高等小学校	1902		
	和田　郁松				1900	高等官六等	横廠附	技養	1925		光工業（68年）
	白井　実	○			1910	高等官六等	横廠附，東京監理官兼高座工廠附	横浜	1933	南国特殊造船王子工場	日立造船神奈川工場
	鈴木　道三				1887	高等官七等	横廠附	中学二修	1903		
	角井　要蔵				1902	高等官七等	横廠附	技養	1928		没（68年）
	石渡　誠次郎				1909	高等官七等	横廠附	技養	1933		
	磯崎　文五郎				1908	高等官七等	横廠附	技養	1934		光工業（68年）
	晴被　久蔵				1904	高等官七等	横廠造船部副部員	技養	1930		相模造船鉄工・取締役技術部長（68年）
	高橋　義一				1904	高等官七等	横廠附	技養	1930		協立鉄工・社長（68年）
	寺泉　佐吉				1905	高等官七等	横廠附	技養	1930		スタア商会（68年）
	山内　長司郎				1906	高等官七等	横廠附	技養	1931		文化興業・社長（68年）

表２－４　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
呉海軍工廠・武官	芳井　一夫				1894	技術少将	呉廠造船部長	東大	1933	前畑造船鉄工・社長	前畑造船鉄工・社長
	加藤　恭亮	○			1899	技術大佐	呉鎮守府附	東大	1923		佐世保船舶工業顧問
	広幡　増弥	○			1903	技術大佐	呉廠造船部部員（作業主任）兼11航空廠部員，広島，大阪監理官	東大	1927	浦賀船渠	浦賀船渠艦艇営業部付
	松本　喜太郎				1903	技術大佐	呉廠造船部部員（設計主任）兼陸軍運輸部部員	東大	1928	大和産業	大和産業
	林　邦雄			○	1903	技術大佐	呉廠造船部出仕兼造船部部員兼第一特別根拠地隊附	東大	1925		
	岡村　恒四郎				1904	技術中佐	呉廠総務部部員兼造船部検査官，艦本造船監督官（広島）	九大	1929		
	原田　進一郎				1907	技術中佐	呉廠造船部部員（船殻主任）兼広工廠鋳物実験部部員，潜水学校教官	東大	1931		
	馬場　清一郎	○			1909	技術中佐	呉廠造船部部員（艤装主任）	九大	1933	日立造船因島工場造船部	日立造船神奈川工場管理課長（60年）
	堀　元美				1910	技術中佐	呉廠造船部部員，造船実験部部員，11航空廠部員	東大	1935	横須賀米海軍基地艦船修理所（SRF）企画部長	浦賀重工業艦艇営業部長（68年）
	松下　喜代作				1914	技術少佐	呉廠造船部部員兼11航空廠部員	東大	1937		
	今井　恭			○	1912	技術少佐	呉廠造船部部員	阪大	1935		
	若松　守朋	○			1916	技術少佐	呉廠造船部部員（大君分工場長）	東大	1939	NBC呉造船部資材課長	浦賀船渠設計部長
	古川　慎				1916	技術少佐	呉廠造船部部員	東大	1940	昭和造船車輌	千代田クラビヤ印刷・取締役
	清水　澄	○			1919	技術少佐	呉廠造船部部員	東大	1941	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所
	木下　共武	○			1917	技術少佐	呉廠造船部部員，11航空廠部員，軍需監理官	九大	1941	佐世保船舶工業	佐世保船舶工業佐世保造船所造船部長
	長　徳重	○			1917	技術少佐	呉廠潜水艦部部員兼潜水学校教員	九大	1941	小堀製作所代表取締役社長	小堀製作所代表取締役社長
	大谷　碧				1920	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1941	鉄道技術研究所第七部	大阪大学工学部教授
	竹内　晃	○			1918	技術大尉	呉廠造船部部員兼11航空廠部員	東大	1941	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所技術管理課長
	大野　民雄		○		1919	技術大尉	呉廠造船部部員	阪大	1941	川崎重工業泉州工場造船部	
	原　紀	○	○		1918	技術大尉	呉廠造船部部員	九大	1941	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所
	沢原　正則		○		1917	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1941		大呉興産工場長
	出羽　正		○		1918	技術大尉	呉鎮守府附	阪大	1941		
	但馬　利夫	○			1918	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1940	東日本重工業横浜造船所	三菱日本重工業横浜造船所
	桂井　清吉			○	1916	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1938	防衛庁（62年）	
	橋本　敏郎	○			1920	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1942	石川島重工業第二工場造船部	石川島重工業東京第二工場検査部長
	村上　正孝	○			1920	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1942	播磨造船所	NBC呉造船部
	中原　敬介	○			1918	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1942	播磨造船所呉船渠技術部解体課	NBC呉造船部技術部次長
	高幣　哲夫		○		1920	技術大尉	呉廠造船部部員（広島監理官）	東大	1942		
	中村　貴憲	○	○		1918	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1942	中日本重工業神戸造船所	新三菱重工業神戸造船所
	鈴木　伊智男				1920	技術大尉	呉廠造船部部員兼造船実験部部員	横浜	1941	石川島播磨重工業（62年）	
	安藤　勇	○	○		1919	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1941	西日本重工業広島造船所	三菱造船広島造船所
	河合　忠夫				1919	技術大尉	呉廠造船部部員	阪大	1943		
	村上(山下)元夫	○			1918	技術大尉	呉廠造船部部員	九大	1943	林兼造船	林兼造船造船設計課長
	小野　栄八郎	○	○		1919	技術大尉	呉廠造船部部員	阪大	1943	九大医学部入学（46年）	
	古賀　福湊		○		1920	技術大尉	呉廠造船部部員	九大	1943		
	甲斐　敬二	○	○		1917	技術大尉	呉廠造船部部員	東大	1941	中日本重工業神戸造船所	新三菱重工業神戸造船所
	吉武　有真	○	○		1921	技術大尉	呉廠造船部部員	阪大	1943	山口県建築部建築課	九州海運局若松支局船舶課長
	戸田　仁志				1922	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1942	石川島播磨重工業（62年）	
	川島　和茂	○	○		1922	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1942	文化興業㈱（横須賀市）	文化興業工事部次長
	瀧沢　宗人	○			1922	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1942	三井造船玉野工場	三井造船玉野工場
	渡辺　亮				1922	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1942	三菱日本重工業（62年）	
	高橋　一男		○		1921	技術大尉	呉廠造船部部員	横浜	1942	北海海運局（62年）	
	白石　隆義				1922	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944		
	井上　英治				1922	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944		
	八木　和夫				1920	技術中尉	呉廠造船部副部員	九大	1944		名古屋造船
	田辺(片岡)謹三				1921	技術中尉	呉廠造船部副部員	九大	1944		阪急バス整備部工場課長
	米倉　邦彦	○	○		1923	技術中尉	呉廠造船部副部員（大君分工場）	東大	1944	西日本重工業長崎造船所造船部	三菱造船長崎造船所造船設計部
	中山　康二		○		1916	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944	日本海船渠工業	日本海船渠工業
	田村　忠興				1923	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944		
	佐々木　一郎				1919	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944		
	細野　末広				1919	技術中尉	呉廠造船部副部員	東大	1944		浦賀造船所監理部予算統計課長
	島田　博之	○	○		1922	技術中尉	呉廠造船部副部員（大君分工場）	九大	1944	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所
	坂本　良一	○	○		1924	技術中尉	呉廠造船部副部員	横浜	1943	東洋電極工業	八幡溶接棒㈱営業部商務課長（62年）
	大竹　秀成		○		1924	技術中尉	呉廠造船部副部員	横浜	1943	日綿実業㈱東京支社（62年）	
	小津　勇		○		1924	技術中尉	呉廠造船部副部員	横浜	1943	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管鶴見造船所
	野村　英男		○		1924	技術中尉	呉廠造船部副部員	横浜	1943	Royal Interocean Lines技術部工務監督（62年）	
	芳野　太郎				1923	技術少尉	呉廠造船部副部員	横浜	1943	没（62年）	
	中神　凡夫	○			1924	技術少尉	呉廠造船部副部員	阪工専	1944	北海道小樽水産高等学校教諭	北海道小樽水産高等学校教諭
	藤田　孝彦				1922	技術少尉	呉廠造船部副部員	横浜	1944	新三菱重工業神戸造船所（62年）	
	橋本　祐起	○			1924	技術少尉	呉廠造船部副部員	阪工専	1944	日立造船	日立造船桜島工場
	柴田　善次				1923	技術少尉	呉廠造船部副部員	阪工専	1944		
	谷本　喜一	○	○		1924	技術少尉	呉廠造船部副部員	阪工専	1944	京都大学理学部卒業（49年）	神戸大学工学部助教授

表２－５　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
呉海軍工廠・文官	辻　影雄				1888	高等官三等	呉廠造船部部員	技養	1922		没（68年）
	浜村　雅男				1894	高等官四等	呉廠造船部部員	技養	1922		日野工業・設計部（68年）
	山中　三郎				1902	高等官四等	呉廠附兼第一技養教官	東大	1928	水野造船所	川崎重工業潜水艦部長
	楠　修策				1889	高等官五等	呉廠造船部部員，広工廠工作機械実験部部員	甲種職工学校	1906		
	宇野田　巌				1905	高等官五等	呉廠附	阪大	1933		
	牧山　幸弥	○			1911	高等官五等	呉廠附	東大	1935	海上保安庁船舶技術部	防衛庁防衛大学校教授
	新納　与一				1898	高等官五等	呉廠附	技養	1925		没（68年）
	古川　忠				1900	高等官六等	呉廠附兼造船実験部部員，製鋼部部員，11航空廠部員	技養	1926		関西工業・社長（68年）
	津吉　良幸				1912	高等官六等	呉廠造船部部員	広島（機）	1932		
	荒谷　勝三郎				1891	高等官六等	呉廠附	技養	1924		
	森　照雄				1895	高等官六等	呉廠造船部部員兼第一技養教官	技養	1926		
	佐々木　幸正				1901	高等官六等	呉廠造船部部員	技養	1928		横浜ヨット・嘱託（68年）
	多川　弘				1900	高等官六等	呉廠附	技養	1926		
	田中　教人				1912	高等官六等	呉廠造船部部員	横浜	1933	三建設備工業㈱（62年）	
	苗加　孝一				1884	高等官七等	呉廠附	見習入業	1896		
	和泉　正一				1900	高等官七等	呉廠附	技養	1927		
	大田　実				1894	高等官七等	呉廠附	技養	1924		大呉興産（68年）
	芦苅　武男				1902	高等官七等	呉廠附	技養	1930		陽光設計（68年）
	竹原　静男				1908	高等官七等	呉廠附	横浜	1930		
	中山　義男				1903	高等官七等	呉廠附	技養	1930		没（68年）
	古川　善男				1907	高等官七等	呉廠附	技養	1933		
	板倉　登				1906	高等官七等	呉廠附	技養	1933		呉船産業
呉海軍工廠・造船実験部武官	小岩　健	○			1899	技術大佐	呉廠造船実験部部員兼製鋼実験部部員	東大	1924	横浜工作所	運輸省第二港湾建設局横浜工場
	寺尾　貞一	○		○	1911	技術少佐	呉廠造船実験部部員	東大	1935	播磨造船所呉船渠	播磨造船所相生工場研究部長（60年）
	吉成　正	○	○		1916	技術大尉	呉廠造船実験部部員	東大	1939	日本郵船	日本郵船工務部保船課長
呉海軍工廠・造船実験部文官	金子　又三郎				1896	高等官三等	呉廠造船実験部部員兼製鋼実験部部員	技養	1923		没（68年）
	江頭　健				1908	高等官四等	呉廠造船実験部部員（第二科主任兼第四科主任）	東大	1932	運輸省船舶研究所	運輸省船舶研究所
	古賀　光太郎				1900	高等官五等	呉廠造船実験部部員	技養	1924		没（68年）
	多田　美朝				1911	高等官六等	呉廠附兼第一技養教官（造船実験部）	広島文理（物理）	1936		
	山本　康民				1901	高等官六等	呉廠附（造船実験部）	高等工芸	1928		
	岡本　勇雄				1897	高等官六等	呉廠造船実験部部員	技養	1924		
	為広　重雄				1909	高等官六等	呉廠附（造船実験部）	広島（応化）	1930		
	奥田　貞利				1902	高等官七等	呉廠附（造船実験部）	技養	1929		興和化成・本社（顧問）（68年）
	氏丸　利夫				1914	高等官七等	呉廠附（造船実験部）	広島（応化）	1934		

表２－６　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
佐世保海軍工廠・武官	森川　信雄				1897	技術大佐	佐厳造船部部員	東大	1922		呉酸素取締役（68年）
	福井　又助				1899	技術大佐	佐厳造船部部員（作業主任）長崎監理官兼軍需監理官	東大	1924		
	小堀　龍造				1904	技術大佐	佐厳総務部部員兼造船部検査官	東大	1926		
	矢田　健二				1907	技術大佐	佐厳造船部部員（船殻主任）	東大	1929		
	村上　外雄	○			1908	技術中佐	佐厳造船部部員（設計主任）	東大	1931	石川島重工業東京第二工場造船設計部長	石川島重工業取締役第二工場長
	諸岡　篤	○		○	1908	技術中佐	佐厳造船部部員（艤装主任）	東大	1933	伊万里湾重工業取締役	三保造船所取締役（東京事務所長）
	西原　虎夫				1914	技術少佐	佐厳造船部部員	東大	1938	名村造船所	
	高橋　利貞			○	1908	技術少佐	佐厳造船部部員兼21航空廠部員	横浜	1932	日露漁業（62年）	
	坂野　五郎				1915	技術少佐	佐厳造船部部員	東大	1939		
	崎田　高定	○			1916	技術少佐	佐厳造船部部員	九大	1940	山領造船（50年）	海上自衛隊東京監督官
	小平　清秀	○	○		1916	技術少佐	佐厳造船部部員	阪大	1940		
	穂波　芳夫		○		1916	技術少佐	佐厳造船部部員兼艦本造船監督官（浦崎）	東大	1940	川南工業東京事務所営業課長	安川電機製作所中型回転機課長
	米田吉(義)男	○			1918	技術少佐	佐厳造船部部員	東大	1941	石川島重工業	石川島重工業
	神田　好雄	○			1916	技術少佐	佐厳造船部部員	東大	1941	NBC呉造船部	呉造船所造船工作部長兼艦艇部付（60年）
	鈴木　春夫	○	○		1917	技術大尉	佐厳造船部部員兼21航空廠部員	阪大	1941	運輸省船舶局造船課	防衛庁装備局船舶課長
	高柳　武男	○	○		1919	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1941	三井造船玉野造船所設計課	三井造船玉野造船所艤装設計課長
	加藤　孝一	○	○		1918	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1941	浦賀船渠浦賀造船所	浦賀船渠
	小宮山　隆三	○			1918	技術大尉	佐厳造船部部員	横浜	1940	慶應義塾大学医学部助手	長門町立病院（長野県）産婦人科医長
	下川(川島)栄一	○			1920	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1942	川崎重工業	川崎重工業造船工場艦艇課長
	平岡　靖章				1918	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1942		
	池内　迪彦	○			1920	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1942	石川島重工業	石川島重工業
	小川　久		○		1919	技術大尉	佐厳造船部部員	阪大	1942	川崎重工業	
	加藤　豪雄		○		1921	技術大尉	佐厳造船部部員	横浜	1941	川崎重工業（62年）	
	仲佐　洋三	○			1922	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1943	東日本重工業横浜造船所	三菱日本重工業横浜造船所
	沢田　俊光	○			1918	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1943	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管本社プラント部課長
	北村　修	○			1921	技術大尉	佐厳造船部部員	東大	1943	オリオン商会取締役	北村修特許事務所長
	和田　壽	○			1921	技術大尉	佐厳造船部部員	九大	1943	播磨造船所呉船渠	呉造船所技術部次長
	田代　雄二郎	○	○		1921	技術大尉	佐厳造船部部員	阪大	1943	日本鋼管	日本鋼管
	福田　淳一	○	○		1920	技術大尉	佐厳造船部部員	九大	1943	九州大学助教授・工学部造船教室	九州大学助教授・工学部造船教室
	仲野　武英		○		1917	技術大尉	佐厳造船部部員	阪大	1943		農業
	西野　泰祐		○		1919	技術大尉	佐厳造船部部員兼造兵部部員	阪大	1943		
	辰巳　清泰				1922	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	松岡　忠正				1921	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944	浦賀船渠浦賀造船所	浦賀船渠浦賀造船所溶接課長
	中野　徳久				1922	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	川原　隆	○			1922	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944	日本郵船	日本郵船
	森　健四郎	○			1920	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944	日立造船因島工場	日立造船因島工場
	佐藤　忠三郎				1921	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	浜崎　周作	○			1921	技術中尉	佐厳造船部副部員	阪大	1944	川南工業香焼島造船所	日立造船因島工場
	元良　誠三	○	○		1922	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944	東大工学部助教授	東大工学部助教授
	竹下　宗夫	○	○		1923	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所
	鵜沢　春生		○		1922	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	亘理　民郎		○		1921	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	古川　伸一		○		1923	技術中尉	佐厳造船部副部員	東大	1944		
	矢吹　宗秋		○		1923	技術中尉	佐厳造船部副部員	横浜	1943	三井造船（62年）	
	中神　一夫		○		1924	技術中尉	佐厳造船部副部員	横浜	1943	日本鋼管浅野船渠（62年）	
	塩谷　幸兵衛				1924	技術少尉	佐厳造船部副部員	大阪高工	1944		
	長谷川　良三				1922	技術少尉	佐厳造船部副部員	横浜	1944	槙野産業㈱技術部長（62年）	
	椋本　栄太郎	○	○		1924	技術少尉	佐厳造船部副部員	大阪工専	1944	播磨造船所	播磨造船所
	須藤　彰一	○	○		1922	技術少尉	佐厳造船部副部員	横浜	1943	日立造船技術研究所	日立造船技術研究所
	川崎　博				1924	技術少尉	佐厳造船部副部員	大阪工専	1944		
	内田　武次				1925	技術少尉	佐厳造船部副部員	大阪工専	1944		
佐世保海軍工廠・文官	山本　実三郎				1896	高等官四等	佐厳附	技養	1922		
	中光　善人				1898	高等官四等	佐厳造船部部員	技養	1923		没（68年）
	大山　音次郎				1895	高等官五等	佐厳附	技養	1924		大山工業所・社長（68年）
	石橋　福次				1897	高等官五等	佐厳造船部部員	技養	1923		没（68年）
	渡辺　梅太郎				1886	高等官六等	佐厳附	中学	1905		
	山高　市兵衛				1883	高等官六等	佐厳附	海軍造船工練習所			
	鵜　次郎				1901	高等官六等	佐厳附	技養	1925		没（68年）
	藤川　仁一				1899	高等官六等	佐厳造船部部員	技養	1926		前畑造船鉄工（68年）
	山本　茂				1902	高等官六等	佐厳附	技養	1927		没（68年）
	原口　秀夫				1910	高等官七等	佐厳附	技養	1927		没（68年）
	細川　庄吉				1905	高等官七等	佐厳附	物理学校	1934		
	両角　五郎				1911	高等官七等	佐厳附	日大工（電）	1935		
	糸山　隆				1905	高等官七等	佐厳造船部副部員	技養	1930		没（68年）
	山崎　亀太郎				1908	高等官七等	佐厳附	技養	1932		旭洋造船鉄工・造船課長（68年）
	藤山　作一				1907	高等官七等	佐厳附	技養	1932		辻産業・検査課嘱託（68年）

表２－７　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
舞鶴海軍工廠・武官	小田　勝治				1897	技術少将	舞廠造船部部長	東大	1922	飯野産業顧問	パシフィックマリーンコーポレーション
	塩山　策一	○			1901	技術大佐	舞廠造船部部員（作業主任）（富山監理官）	東大	1925	飯野産業	飯野重工業取締役艦艇兵器部長
	船越　卓	○			1908	技術中佐	舞廠造船部部員（艤装主任）兼軍需監理官	東大	1932	横浜工作所取締役	設計会社社長
	山下　啓三				1909	技術中佐	舞廠造船部部員	東大	1934	日鐵汽船	日鐵汽船工務監督
	河東　克己	○			1911	技術少佐	舞廠造船部部員（設計主任）兼総務部部員兼兵学校教官	東大	1935	横須賀米海軍船舶修理廠コンサルタント	函館ドック技術部長
	緒明　亮乍	○			1915	技術少佐	舞廠造船部部員	東大	1937	国際船舶工務所設計課長	防衛庁技術部艦船課
	井上　淳一			○	1915	技術少佐	舞廠造船部部員	横浜	1936	光工業㈱社長（横須賀市）	光工業㈱社長（横須賀市）
	北村　源三	○			1917	技術少佐	舞廠造船部部員兼総務部部員兼軍需監理官	九大	1940	NBC呉造船部企画課長	協成汽船常務取締役
	松島　正義		○		1915	技術少佐	舞廠造船部部員	東大	1939	運輸省海運局	四国海運局船舶部長
	安野　竹三	○			1917	技術少佐	舞廠造船部部員（船具主任）	東大	1941	東北船渠	海上自衛隊
	三輪（朝永）信雄				1917	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1941	船舶技術協会	船舶技術協会
	高須（鈴木）敬		○		1918	技術大尉	舞廠造船部部員（船渠主任）	阪大	1941	海上保安庁船舶検査官	海上幕僚監部艦船課
	横山　信立	○			1919	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1942	国鉄総局船舶課	水産庁生産部漁船研究室
	田中　茂之				1920	技術大尉	舞廠造船部部員	九大	1942		
	川上　壽夫	○			1920	技術大尉	舞廠造船部部員	阪大	1942	川崎重工業艦船工場工作課	川崎重工業艦船工場工作課
	西嶋　輝彦		○		1920	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1942		
	片山　保		○		1920	技術大尉	舞廠造船部部員	阪大	1941		
	池端　賢輔				1919	技術大尉	舞廠造船部部員	横浜	1941	ロイド船級協会（55年）	ロイド船級協会
	久保　正造	○	○		1921	技術大尉	舞廠造船部部員	横浜	1941	石川島重工業造船部	石川島重工業造船部
	上田　茂		○		1919	技術大尉	舞廠造船部部員	九大	1943		
	山内　保文	○			1919	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1943	運輸技術研究所船舶性能部	運輸技術研究所船舶性能部研究室長
	中西　哲一郎	○			1921	技術大尉	舞廠造船部部員兼第一造兵部部員	東大	1943	日立造船東京事務所船舶課	日立造船原子力調査室
	橋本（細野）寛				1919	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1943	橋本織物	橋元織物専務取締役
	春永　盛生	○	○		1920	技術大尉	舞廠造船部部員	東大	1943	運輸省北海道海運局登録測度課長	運輸省大臣官房企画課
	山崎　恒雄				1922	技術大尉	舞廠造船部部員	横浜	1942	没（62年）	
	岡崎　順一				1920	技術中尉	舞廠造船部副部員	東大	1944		日本海事協会大阪支部検査員
	中井　孝	○			1918	技術中尉	舞廠造船部副部員	東大	1944	日本鋼管船舶営業部	日本鋼管船舶営業部外国船課長（61年）
	長谷川　正	○			1921	技術中尉	舞廠造船部副部員	東大	1944	浦賀船渠	浦賀船渠検査部船体検査課長
	中村　幹雄	○			1921	技術中尉	舞廠造船部副部員	東大	1944	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管清水造船所
	根本　広太郎	○	○		1923	技術中尉	舞廠造船部副部員	東大	1944	播磨造船所	播磨造船所技術部技術課長
	日下部　哲		○		1921	技術中尉	舞廠造船部副部員	九大	1944		
	小林　鉄男		○		1921	技術中尉	舞廠造船部副部員	阪大	1944	林兼造船所	林兼造船所技師
	兼重　信		○		1922	技術中尉	舞廠造船部副部員	九大	1944		
	金沢　四郎太				1923	技術中尉	舞廠造船部副部員	横浜	1943	没（62年）	
	生田目　忠雄		○		1923	技術中尉	舞廠造船部副部員	横浜	1943	宝幸水産㈱船舶部（62年）	
	松谷　繁次		○		1924	技術中尉	舞廠造船部副部員	横浜	1943	自営（62年）	
	桑木　清				1922	技術少尉	舞廠造船部副部員	大阪工専	1944		
	大機　健二				1924	技術少尉	舞廠造船部副部員	横浜	1944	大機建築設計事務所（62年）	
	関根　通男				1924	技術少尉	舞廠造船部副部員	横浜	1944	日本鋼管鶴見造船所	日本鋼管清水造船所
	蔵野　楠雄				1923	技術少尉	舞廠造船部副部員	大阪工専	1944		
	友田　清				1923	技術少尉	舞廠造船部副部員	横浜	1944	三菱造船広島造船所（62年）	
	小林　三郎	○		○	1924	技術少尉	舞廠造船部副部員	横浜	1944	飯野産業舞鶴造船所	飯野重工業舞鶴造船所
舞鶴海軍工廠・文官	籾山　正末				1907	高等官五等	舞廠附（船殻主任）	阪大	1933		飯野重工業舞鶴造船所副所長
	国松　房蔵				1887	高等官五等	舞廠附	工学院	1930		
	更井　一夫				1907	高等官六等	舞廠附	東大	1929		
	田中　潔				1909	高等官六等	舞廠附	徳島高工（機）	1930		
	津崎　良二				1908	高等官六等	舞廠附	広島高工（機）	1931		
	大村　繁一				1904	高等官六等	舞廠附	技養	1928		今井造船・設計部長（68年）
	西村　久次				1891	高等官六等	舞廠附	見習	1911		
	矢野　一雄				1895	高等官七等	舞廠附				
	武原　利一				1901	高等官七等	舞廠附	技養	1930		
	高橋　安太郎				1913	高等官七等	舞廠附	技養	1930		農業（68年）
	井出　勇雄				1908	高等官七等	舞廠造船部副部員	東高芸（金属工芸）	1932		
	波多野　宗九郎				1906	高等官七等	舞廠附	技養	1932		医薬品自営（68年）

表２－８　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍艦政本部造船監督官東京駐在	西村　弥平				1894	技術大佐	艦本造船監督官，関東監理官，監査官（東京）	東大	1921	農業	農業
	稲川　精一				1901	技術大佐	艦本造船監督官（東京）	東大	1924		国際船級協会横浜事務所
	斎藤　貫二郎				1903	技術大佐	艦本造船造兵監督官軍需監理官（浦賀，横浜）	東大	1926		
	立川　義治	○			1898	高等官四等	艦本造船監督官（東京）	技養	1922	日本鋼管本社	日本エンジニアリング嘱託
	関　博治				1904	高等官四等	艦本附兼造船監督官（東京）東京監理官	九大	1932		
	米元　竹平				1886	高等官四等	艦本附兼造船監督官（東京）軍需監理官	技養	1922		
	新倉　岩次郎	○			1903	高等官六等	艦本造船監督官（東京監理官）	技養	1927	新倉工業代表取締役社長	新倉工業代表取締役社長
	平本　誠一				1905	高等官六等	艦本附兼造船監督官（東京監理官）	物理学校	1930		
	熊倉　直平				1903	高等官七等	艦本附兼造船監督官航本造兵監督官（東京，仙台）	技養	1927		農業（68年）
	石原　伝蔵				1901	高等官七等	艦本附兼造船監督官（東京）（東京監理官）	技養	1927		大沢工業（68年）
	塚田　一男				1907	高等官七等	艦本附兼造船監督官（東京）	技養	1932		没（68年）
	服部　貫一				1901	高等官七等	艦本造船監督官（横浜）	工手学校	1925		
海軍艦政本部造船監督官浦賀駐在	関　甚作				1892	高等官四等	艦本附（第四部）兼造船監督官	技養	1923		没（68年）
	西谷　京一				1895	高等官六等	艦本附兼造船監督官（浦賀）	技養	1927		没（68年）
	黒川　定吉				1893	高等官七等	艦本附兼造船監督官，航本造兵監督官（東京，仙台）	技養	1922		没（68年）
	石渡　真蔵				1899	高等官七等	艦本附兼造船監督官（浦賀）	技養	1927		
海軍艦政本部造船監督官大阪駐在	安成　貞一				1903	技術大佐	艦本造船監督官（近畿），軍需監理官，海軍省出仕，呉廠出仕	東大	1926		木下商店機械部
	秋山　忠良				1902	技術大佐	艦本造船監督官（大阪監理官）	東大	1929		
	中川　勉		○		1915	技術少佐	艦本造船監督官（大阪）	東大	1939	舶用鉄鋼協会	光洋製鎖取締役
	深水　正保	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官（大阪）	阪大	1941	横河橋梁製作所設計課	横河橋梁製作所設計課
	片山　連次郎				1891	高等官三等	艦本附兼造船監督官（大阪）	技養	1922		日本海重工
	有家　信治				1895	高等官六等	艦本附兼造船監督官，近畿監理官	技養	1924		
	草村　政次				1897	高等官六等	艦本附（第四部）艦本造船監督官近畿監理官	技養	1924		大平工業・安芸津造船所（68年）
	梶原　等				1898	高等官七等	艦本附兼造船監督官（大阪）	技養	1924		
	芝崎　留吉				1900	高等官七等	艦本附（第四部）艦本造船監督官（大阪）	技養	1931		アジア船舶工業社（68年）
	市川　四郎				1904	高等官七等	艦本附兼造船監督官（大阪）	技養	1932		葵機械工業（68年）
	岩堀　七郎				1911	高等官七等	艦本造船監督官（大阪）	技養	1934		没（68年）
	波多野　清				1909	高等官七等	艦本造船監督官（大阪）	名高（機）	1932		
その他の大阪駐在	桝方　楢三郎				1895	技術少将	大阪工作部長兼大阪警備府附	東大	1934		
	小和田　正巳		○		1919	技術大尉	大阪警備府附	阪大	1943	日立造船桜島工場造船課	日立造船桜島工場造船課
	上羽　助太郎				1895	高等官四等	大阪警備府附	技養	1923		没（68年）
	田中　吉信				1897	高等官七等	艦本附造船監督官	技養	1929		大和設計所（68年）

表２－９　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍艦政本部造船監督官神戸駐在	松田　良雄	○			1898	技術大佐	艦本出仕兼造船監督官兼軍需監理官（神戸）	東大	1937	水道工事会社（大阪）	防衛庁神戸駐在官事務所
	塩沢　岩根	○			1916	技術少佐	艦本造船監督官（神戸）兼経理学校教官	東大	1940	佐野屋鉄工所専務取締役	佐野屋鉄工所代表取締役社長（60年）
	太田　三喜男	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官（境）	東大	1943	日立造船神奈川工場工務部	日立造船築港工場造船課長
	高畑　正二				1908	高等官四等	艦本造船監督官（神戸）	東大	1932		
	川崎　薫				1907	高等官五等	艦本附兼造船監督官（神戸）	東大	1935		
	前野　郁男				1911	高等官六等	艦本附兼造船監督官（神戸）近畿監理官	広島高工	1932		播磨造船所購買課長（60年）
	原　信次郎				1898	高等官六等	艦本附兼造船監督官	技養	1927		農業（68年）
	加藤　祐				1902	高等官七等	艦本附（第四部）兼造船監督官（神戸）	技養	1928		没（68年）
	新井　甚作				1902	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1929		没（68年）
	福田　喜六				1904	高等官七等	艦本造船監督官（神戸）	技養	1928		没（68年）
	広瀬　秀太郎				1905	高等官七等	艦本附兼造船監督官（神戸）	技養	1932		横須賀エンジニヤリング（60年）
	高橋　保				1909	高等官七等	艦本附兼造船監督官（神戸）	技養	1933		近畿財務局・京都証券取引所監理官（60年）
海軍艦政本部造船監督官室蘭駐在	石井　勝海	○	○		1917	技術大尉	艦本造船監督官兼航本造兵監督官，軍需監理官（札幌）	阪大	1942	日立造船桜島工場造船課	日立造船桜島工場造船課長
	由利　健一	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官（函館）	東大	1943	播磨造船呉船渠	NBC呉造船部船殻第一課長
	鈴木　克浩		○		1920	技術大尉	艦本造船監督官（小樽）	横浜	1941	没（62年）	
	吉田　保雄				1905	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1929		大和工業所（68年）
岡山駐在	野村　信夫				1912	高等官五等	艦本造船監督官（岡山）	九大	1936		
	花田　博太郎				1913	高等官七等	艦本造船監督官兼航本造兵監督官（岡山）	横浜	1934	没（62年）	
広島駐在	岩下　正次郎				1912	技術少佐	呉廠造船部部員（広島監理官）	阪大	1935		
	佐立　正明				1915	技術少佐	艦本造船監督官（広島監理官）	東大	1941	日本水産	日本水産船舶部工務課
	光勢　功		○	○		技術大尉	艦本造船監督官（広島）	京高工芸（図）	1935		
	関谷　徹		○		1919	技術大尉	艦本造船監督官（松山）	東大	1941	鎌長	
	冨岡　達夫	○			1921	技術大尉	艦本造船監督官（下関）	横浜	1941	昭和造船車輌	横浜ヨット
	斎藤　一郎				1921	技術大尉	艦本造船監督官（因島）	横浜	1941	鈴木工務所（62年）	
	田中　房雄				1900	高等官七等	艦本附造船監督官	技養	1929		没（68年）
八幡駐在	飯河　晶	○			1899	技術大佐	艦本造船造兵監督官兼航本監督官，海軍省出仕（福岡監理官監査官）	東大	1924		三井造船顧問
	岡田　憲政			○	1911	技術少佐	艦本造船造兵監督官兼航本造兵監督官兼軍需監理官	東大	1934		
	上村　英明		○		1918	技術大尉	艦本造船監督官（八幡）	九大	1941		
	土井　大陸		○		1917	技術大尉	艦本出仕（八幡）	阪大	1941	西日本重工業広島造船所	三菱造船広島造船所
	和田　稔	○	○		1919	技術大尉	艦本出仕（八幡）	東大	1943	川崎重工業神戸工場	川崎重工業神戸工場資材部課長
	新納　虎一				1900	高等官七等	艦本附兼造船監督官（八幡）	技養	1928		大和設計（68年）
	佐藤　太郎				1911	高等官七等	艦本造船監督官（八幡）	技養	1934		没（68年）
長崎駐在	本多　政徳				1899	技術大佐	艦本造船監督官（長崎監理官）	東大	1925		
	早瀬　亮		○	○	1914	技術大尉	艦本造船監督官（長崎）	物理学校	1936		
	高橋　正郎	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官	東大	1943	三井造船玉野造船所	三井造船玉野造船所
	坪川　琢				1899	高等官六等	艦本附兼造船監督官（長崎）	技養	1925		
	吉原　敬次				1903	高等官六等	艦本部員兼造船監督官（長崎）	技養	1929		橋口鉄工造船所（68年）
	横倉　酉太郎				1913	高等官七等	艦本造船監督官（長崎）	横浜	1934	㈱野沢組横須賀出張所（62年）	
名古屋駐在	高橋　正徳				1908	技術中佐	艦本造船造兵監督官兼航本造兵監督官兼軍需監理官（名古屋）	九大	1933		
	和田　猪一	○			1916	技術大尉	艦本造船造兵監督官兼航本造兵監督官兼軍需監理官	東大	1941	第五管区海上保安本部	横須賀地方総監技術部艦船課長
	岡　種比古		○		1919	技術大尉	航本造兵監督官	東大	1942		
	起橋　輝男		○		1921	技術大尉	艦本造船造兵監督官兼軍需監理官	横浜	1941	市立工業高等学校（名古屋市）（62年）	
	沢田　真言				1895	高等官四等	艦本造船監督官	技養	1922		三久船舶工業・設計部（68年）
	金沢　半次				1902	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1928		
富山駐在	福井　静夫				1915	技術少佐	舞廠出仕兼艦本造船監督官（富山）	東大	1938	海上保安庁船舶技術部造船課	財団法人史料調査会
	川井　源司	○	○		1918	技術大尉	舞廠出仕兼艦本造船監督官（富山）	阪大	1941	日立造船桜島工場	日立造船桜島工場造船課長（60年）
	安井　次郎		○		1921	技術大尉	艦本出仕造船監督官（新潟）	東大	1942	浦賀船渠浦賀造船所	
	久保田　欽也		○		1919	技術大尉	艦本造船監督官（伏木）	横浜	1941	日本鋼管（62年）	
	山下　龍雄	○	○		1920	技術大尉	艦本造船監督官（七尾）	東大	1943	南国特殊造船	防衛庁海上自衛隊
	冨田　哲治郎	○	○		1921	技術大尉	艦本造船監督官（船川）	東大	1943	三井造船	三井造船玉野造船所造船設計部
	石橋　為三				1899	高等官六等	艦本造船監督官（新潟）	技養	1924		没（68年）
台北駐在	山本　正敏				1902	技術大佐	艦本造船監督官兼高雄警備府附基隆監督官	東大	1926		造船協会事務局長
	甲佐　泰彦	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官兼馬公工作部部員（台北）	阪大	1942	日立造船因島工場	日立造船向島工場造船課長

表２－10　海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍工作部	丹羽　誠一	○	○		1913	技術少佐	大湊工作部部員	東大	1938	南国特殊造船	防衛庁技術研究所
大湊海軍工作部	橋本　隆年	○	○		1919	技術大尉	大湊工作部部員（占守分工場）	九大	1942	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所船殻工作部外業工場長
	内藤　和明		○		1921	技術中尉	大湊工作部副部員	九大	1944		
	飯田　彦太郎				1902	高等官六等	大湊工作部部員	技養	1926		没（68年）
	岡野　一義				1911	高等官七等	大湊工作部附	横浜	1932	没（62年）	
	蛭田　研造				1901	高等官七等	大湊工作部附	技養	1932		没（68年）
高雄海軍工作部	増山　忠美				1912	技術少佐	高雄工作部部員兼艦本造船監督官台北監理官	東大	1935		
	岡本　章				1915	技術少佐	高雄工作部部員（馬公分工場）	東大	1941	山崎産業	呉造船所船装設計課
	島雄　朝矩				1901	高等官七等	高雄工作部部員（馬公分工場）	技養	1930		
第一海軍工作部（上海）	中田　富次郎	○			1914	技術少佐	第一工作部造船科長兼艦本造船造兵監督官，上海運輸部部員	東大	1939	林兼造船	林兼造船
	大矢　健郎			○	1917	技術大尉	第一工作部附	東大	1941		
	両角　一芳		○		1923	技術大尉	第一工作部部員	横浜	1942	没（62年）	
	満木　源吾				1902	高等官七等	第一工作部副部員	技養	1929		極東マツクグレゴー（68年）
第二海軍工作部	梶田　邦夫			○	1909	技術中佐	第二工作部部員（造船科長）兼艦本造船監督官	東大	1933		
（香港）	鳥居　忍		○		1917	技術大尉	第二工作部部員	東大	1941	東日本重工業横浜造船所	
	藤本　若松				1904	高等官七等	第二工作部副部員	技養	1931		関西工業（68年）
第三十海軍工作部（パラオ）	鶴田　龍夫	○			1916	技術大尉	第三十工作部先任部員兼造船科長	東大	1941	農業	石川島重工業艦艇建造部長付
第四海軍工作部（トラック）	仁瓶　廉三	○			1918	技術大尉	第四工作部部員（造船科長）	東大	1941	京浜梱包交通	川崎重工業潜水艦部船体設計課長
第八海軍工作部（ラバウル）	安東　孝光				1914	技術少佐	第八工作部部員	東大	1938		川崎製鉄電機部設計課
第百一海軍工作部	梶原　正夫				1899	技術大佐	第百一工作部部員兼艦本造船監督官	東大	1923		日本大学講師（68年）
（シンガポール）	笠間　正巳				1916	技術少佐	第百一工作部部員	九大	1940	津久見造船（47年）	
	村田　章	○			1916	技術少佐	第百一工作部部員（造船科作業主任）	東大	1940	日本鋼管清水造船所	日本鋼管清水造船所企画課長
	筒井（斎木）為雄	○			1918	技術大尉	第百一工作部部員兼艦本造船監督官	阪大	1941	名村造船	防衛庁調達実施本部神戸駐在官事務所
	渡辺　修治				1919	技術大尉	第百一工作部部員（造船科）	東大	1941		
	山下　昇		○		1920	技術大尉	第百一工作部部員	横浜	1941	浦賀船渠浦賀工場（62年）	
	阿閉　貞之	○	○		1920	技術大尉	第百一工作部部員	横浜	1941	日本鋼管	日本鋼管
	三原　馨				1902	高等官七等	第百一工作部副部員	技養	1931		深田サルベージ・技術室（68年）
	前林　松蔵				1907	高等官七等	第百一工作部副部員	技養	1934		米基地S.R.F設計（68年）
第百二海軍工作部	中島　富士夫				1909	技術中佐	第百二工作部部員兼艦本造船監督官	東大	1934		佐世保船舶工業資材部長（60年）
（スラバヤ）	藤本　正	○			1918	技術少佐	第百二工作部部員（サイゴン分工場工務主任）	東大	1940		米国船級協会
	大蘭　政幸	○	○		1914	技術大尉	第百二工作部部員	九大	1938	NBC呉船殻課長	NBC呉技術部長
	吉田　俊夫		○		1916	技術大尉	第百二工作部部員	阪大	1938		川崎重工業造船工作部長（60年）
	小島　穀男		○		1915	技術大尉	第百二工作部部員	東大	1940	関東海運局船舶部造船課長	運輸省船舶技術管理官
	佐藤　友行				1914	技術大尉	第百二工作部部員兼艦本造船監督官兼南西方面艦隊民政府附第百二燃料廠造修部部員	横浜	1938	陸上自衛隊（62年）	
	市川　泰	○	○		1918	技術大尉	第百二工作部部員（工務主任）兼造船監督官，南西方面艦隊民政府附	東大	1941	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所
	遠藤　春夫	○	○		1921	技術大尉	第百二工作部部員（造船科艤装木工場主任）	横浜	1941	日本鋼管浅野船渠	日本鋼管清水造船所修繕課長（60年）
	恩田　嘉		○		1918	技術大尉	第百二工作部部員兼第百二燃料廠出仕	横浜	1939	石川島播磨重工業（62年）	
第百三海軍工作部	下野　誠児	○			1917	技術少佐	第百三工作部部員（造船科）	東大	1940	旭海運	旭海運工務課長
（マニラ）	菊地　一郎	○			1915	技術大尉	第百三工作部部員（セブ分工場主任）	横浜	1936	浦賀船渠浦賀作業部	浦賀船渠横浜工場長
	金内　忠雄	○	○		1922	技術大尉	第百三工作部部員	横浜	1941	播磨造船所呉船渠	NBC呉造船部
鎮海海軍工作部	馬場　義輔	○			1921	技術大尉	艦本造船監督官（釜山）兼鎮海工作部部員	東大	1942	昭和造船車輌	防衛庁海上自衛隊地方統監部艦船課長兼工作所長（58年）
	湯浅　周一				1904	高等官七等	鎮海工作部附造船監督官	技養	1932		大平工業・安芸津造船所工務部部長付（68年）
艦隊	稲垣　輝樹				1916	技術大尉	第一南遣艦隊司令部附兼造船監督官	横浜	1937	日本鋼管工事㈱（62年）	
	交野　四郎		○		1916	技術大尉	南西方面艦隊民政府附（海南島工作部先任部員）	阪大	1941	上野農薬工業	上野農薬企画部
海軍潜水学校教官	山脇　正輔	○	○		1917	技術大尉	潜水学校附教官，呉厳造船部部員兼潜水艦部部員	阪大	1942	東日本重工業横浜造船所艤装部係長	三菱日本重工業横浜造船所艤装部課長
	奥野　幸之祐		○		1919	技術大尉	潜水学校附教官，呉厳造船部部員兼潜水艦部部員	阪大	1944	橋立造船造船部技師	自家営業板硝子荒物販売
海軍兵学校教官	大城　永幸				1918	技術大尉	兵学校附兼教官	九大	1941	柿原組	防衛庁海幕技術部艦船課
	大橋　恵二郎	○	○		1919	技術大尉	兵学校附兼教官（航空機科）	東大	1941	西日本重工業長崎造船所	三菱造船長崎造船所
	松林（丸山）八郎		○		1915	技術大尉	兵学校附兼教官	東大	1941		
	馬場　太平		○		1920	技術大尉	兵学校附兼教官	九大	1942		
海軍航空本部	福田　烈				1893	技術中将	航本出仕	東大	1918		日本工業経済連盟理事長
	三嶋　忠雄	○		○	1907	技術中佐	第二十一航空廠飛行機部部員	東大	1932	長崎農産化工工場長	深堀造船所工務次長
	橋本　啓介	○		○	1909	技術少佐	高座工廠飛行機部部員（組立整備工場長）	東大	1935	SRF	飯野重工業（60年）
	空井　英三				1888	高等官三等	第二十一航空廠兵器部部員	工学院	1923		
	風間　淳				1910	高等官五等	航空技術廠飛行機部部員（山形出張所）	東大	1933		
	高島　彬				1906	高等官五等	航空技術廠推進機部部員兼検査官	東大	1931	関東海運局	運輸省捕獲審検再検査委事務局
軍需省	藁谷　英彦				1898	技術大佐	軍需省軍需官	東大	1922		
	冨田　範郎				1907	技術大佐	軍需省航空兵器総局東北地方軍需監理官兼航本出仕	東大	1931		
海軍省	玉沢　煥				1881	予備役技術中将	海軍省嘱託（造船統制会理事）	東大	1906		
	浅野　卯一郎				1903	大佐	軍令部出仕	機関学校出身			

表３－１　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
赤崎　繁	1898	東大	1922			○	1942年　大阪大学教授，46年　同退職（公職追放，51年まで），49年　母溶接（株）取締役社長，50年　東洋電極工業（株）取締役 52年　大阪府立大学教授，57年　同工学部長，60年　同学長，66年　長崎造船大学教授
青戸　帰一	1915	阪大	1940	○		○	終戦前離現役，1945年　浦賀船渠船殻課長，61年　浦賀重工浦賀造船所副所長，70年　東北造船常務取締役
安藤　勇	1919	横浜高工	1941	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，46年　三菱造船広島造船所，75年　三菱重工業本社，78年　三菱重工工事
阿閉　貞之	1920	横浜高工	1941	○	○		1946年　日本鋼管浅野船渠，65年　日本鋼管工事・技術部管理課長，70年　日本鋼管，75年　日本鋼管工事 84年，三和国際特許事務所，86年　木村佐々木国際特許事務所
飯河　晶	1899	東大	1924				三井造船顧問（年次不祥）
岩崎　正英	1899	九大	1924				1947年　延岡造船所，48年　細島造船所，50年　石川島重工業，58年　日本技術協力，60年　石川島播磨重工業 65年　大浜鉄工所顧問
井上　淳一	1915	横浜高工	1936		○		1945年　石川島重工業，47年　光組代表取締役社長，48年　光工業（社名変更）代表取締役社長，66年　日本中型造船工業会理事
生田　実	1916	横浜高工	1938	○	○		1945年　米国海軍　横須賀基地，47年　吾妻計器製作所設立，取締役社長
市川　泰	1918	東大	1941	○			1946年　三菱重工業長崎造船所，復員・復職，65年　同船殻工作部長，72年　同横浜造船所副所長，74年　同長崎造船所長
池内　迪彦	1920	東大	1942				1946年　佐世保船舶工業，50年　石川島重工業，60年　イシブラス造船部長，64年　石川島播磨重工業海外事業本部 85年　韓国　三星重工業造船技術顧問，89年　香港　パレス　スティームシップ主席監督
石井　勝海	1917	阪大	1942	○			1945年　日立造船桜島工場，復員と同時に復職，58年　同造船課長，60年　同修繕課長，66年　同築港工場修繕部長 67年　尾道造船出向，82年　萱場工業　転籍
岩崎　三郎	1920	阪大	1943	○			1945年　日立造船設計部造船設計課復員と同時に復職，71年　同取締役堺工場長，78年　同常務取締役海洋事業本部長 81年　日立造船エンジニアリング代表取締役社長
井本　武	1921	九大	1943	○			1945年　三菱重工業横浜造船所，復員と同時に復職，46年　林兼造船下関造船所，64年　同取締役，68年　同長崎造船所工務部長 77年　関門製作所（下関市）代表取締役
石橋　郁三	1922	横浜高工	1942	○			1945年　大島工業入社，46年　文化興業専務取締役，86年　同代表取締役社長
石田　政雄	1924	横浜高工	1944				1951年　北越工業入社，55年　同取締役工場次長，63年　同工場長，75年　同代表取締役社長，95年　新潟工科大学理事長
内田　勇	1913	東大	1936	○			1945年　三井造船，復員と同時に復職，52年　同本店海務部造船課長，61年　三井船舶造船研究室長，63年　明治海運常務取締役 64年　同代表取締役社長，68年　経済同友会幹事，72年　日本海運集会所理事，79年　神戸商工会議所副会頭
浮田　基信	1917	東大	1941				1946年　日本造船富士見工場，49年　日本鋼管鶴見工場，61年　同清水造船所，64年　同本社船舶部船舶管理部長， 70年　同技術研究部長，72年　日本船舶機器開発協会　78年　海洋科学技術センター
遠藤　春夫	1921	横浜高工	1941				1946年　日本鋼管浅野船渠，60年　同清水造船所修繕課長，65年　同浅野船渠船体部長兼修繕船部長，73年　同鶴見造船所 浅野船渠担当副所長，77年　東北造船取締役，79年　同常務取締役，81年　日本鋼管本社海外プロジェクト部長
小野塚　一郎	1911	東大	1935				1946年　明楽工業，48年　日立造船東京事務所，56年　同船舶輸出部長，57年　同ロンドン事務所長，60年　同調査部長 62年　飯野重工業出向（常務取締役），65年　日立造船取締役（神奈川工場長），67年　同常務取締役，71年　同取締役副社長
緒明　亮乍	1915	東大	1937				1946年　日本鋼管清水造船所，49年　国際船舶工務所設計課長，53年　国際船舶設計協会参事，54年　横浜国立大学工学部講師 57年　防衛庁海上自衛隊技術部艦船課，60年　同技術本部副技術開発官，69年　海将，70年　日本鋼管参与
岡部　利正	1915	九大	1938	○		○	1945年　三菱重工業長崎造船所造船設計部，53年　同船殻設計課長，61年　同造船設計部長，66年　同長崎造船所技師長 75年　同常勤顧問（長崎総合科学大学教授）
大薗　政幸	1914	九大	1938	○			1947年　播磨造船所呉船渠（解体主任），51年　NBC呉造船部（船殻課長，後技術部長），62年　呉造船所取締役，64年　同陸上副事業部長 兼新宮工場長，67年　臼杵鉄工所常務取締役
小倉　龍朗	1916	九大	1939				1945年　熊本造船，51年　RIデルバン（木造船検査監督），54年　海上自衛隊（後海将，海幕技術部長），74年　日本電池顧問 77年　艦船技術サービス，83年　同代表取締役社長，90年　海軍造船会会長
岡上　敏雄	1919	横浜高工	1940	○		○	1945年　日立造船因島工場（40年造船課入社），64年　舞鶴重工業出向，65年　日立造船船舶事業部長付，67年　尾道造船出向
岡本　章	1915	東大	1941				呉造船所設計部長，同ロンドン事業所長，エッソ監督官
大賀　秀輝	1919	九大	1941				1948年　佐世保船舶工業（福岡分工場主任），55年　同佐世保造船所外業部艤装課長，62年　同造船部長，66年　佐世保重工業 取締役，74年　同常務取締役，76年　同佐世保造船所長，79年　大賀事務所代表取締役
大橋　恵二郎	1919	東大	1941	○			1945年　三菱重工業長崎造船所復職（船殻設計）
大谷　栄一	1918	九大	1942	○		○	1945年　津山重工業技師長，49年　運輸省船舶検査官，52年　海上保安庁６管区本部船舶技術課，61年　同７管区本部船舶技術部長 70年　藤田鉄工所常務取締役，79年　神戸舶用工業会副会長
○岡山　興隆	1922	東大	1943	○			1946年　播磨造船所呉船渠，復員と同時に復職，52年NBC呉造船部，61年　呉造船所，66年　同新宮工場長，69年　富士安浦製作所社長 73年　富士機械工業専務取締役，76年　呉港製作所社長
小野　栄八郎	1919	阪大	1943	○			1946年　九大医学部入学
太田　三喜男	1918	東大	1943	○			1945年　日立造船神奈川工場，復員と同時に復職，58年　同築港工場造船課長，66年　同因島工場修繕部長，68年　同副工場長 72年　同有明工場副工場長，73年　同取締役（有明工場長）

［出所］桜井清彦編『造船官の記録　戦後編』海軍造船会，2000年，483－554頁。

（注）　(1)　「転官」は文官または短期現役士官から永久服役士官への転官，「離任」は終戦前離任。
　　(2)　氏名の前の○印は表２－１～表２－10に表掲されていないことを示す。
　　(3)　氏名の前の◎は海軍技師を表す。

表３－２　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
小澤　雅男	1921	横浜高工	1942				1945年　三保造船所，49年　石川島重工業，56年　同本社管理部船舶予算課長，63年　石川島播磨重工業船舶事業部管理部次長 79年　石川島興業取締役不動産事業部長，81年　同常務取締役，85年　日本営繕建設取締役
岡田　一喜	1923	横浜高工	1943				1946年　南国特殊造船，53年　日立造船神奈川工場造船課，67年　同新船課長，68年　同因島工場塗装課長，77年　日立造船非破壊検査出向
加藤　恭亮	1899	東大	1923				佐世保船舶工業顧問，日本瓦斯化学工業顧問
河東　克己	1911	東大	1935				1945年　川南工業香焼島造船所，49年　国際船舶工務所出向，50年　横須賀米海軍船舶修理廠スペシャル・コンサルタント， 52年　佐世保船舶工業本社艦艇課長，55年　函館ドック函館造船所設計部長，同本社技術部長，66年　東海大学海洋学部船舶工学科教授
笠間　正巳	1916	九大	1940				1946年　復員（ペナンより），47年　津久見造船
神田　好雄	1916	東大	1941				1946年　播磨造船所，50年　NBC呉造船部，63年　石川島播磨重工業呉工場長，73年　岩国製作所社長
金子　一夫	1920	東大	1941	○			1945年　三菱重工業神戸造船所，復員と同時に復職，59年　同艦艇艤装課長（初代），74年　同副所長，76年　同下関造船所長
川井　源司	1918	阪大	1941	○			1945年　日立造船桜島工場，復員と同時に復職，53年　同管理課長，60年　同造船課長，61年　同堺工場建設本部造船建設課長 69年　同開発事業本部海洋開発部長，71年　同向島工場長，75年　同陸機事業本部陸機設計所長
加藤　孝一	1918	東大	1941	○			1945年　浦賀船渠，復員と同時に復職，艤装工場，管理，営業畑を歩む。68年　住友重機械工業取締役，92年　マレーシヤ造船所設立に参加
川上　寿夫	1920	阪大	1942				1945年　播磨造船所，48年　川崎重工業神戸工場，66年　同ニューヨーク事務所，69年　同船舶営業本部，70年　同開発本部海外事業部， 78年　Philippine Shipyard & Engineering，84年　川重商事，87年　重松製作所貿易部
片山　信	1918	東大	1942				1945年　広瀬サルベージ，46年　横浜工作所，48年　藤永田造船所，65年　同基本設計部長，70年　三井造船船舶事業部管理部長 73年　同基本設計本部長，77年　同技監，84年　アジアベンチャー工務部長，87年　ペガサス　インターナショナル社長
金内　忠雄	1922	横浜高工	1941	○			1946年　播磨造船所呉船渠，復員と同時に復職，52年　NBC呉造船部，62年　呉造船所，65年　呉造船所造船工場長， 68年　石川島播磨重工業呉第一工場長，74年　同取締役船舶事業本部副本部長，83年　石川島造船化工機代表取締役社長
甲斐　敬二	1917	東大	1941	○			1945年　三菱重工業神戸造船所，復員と同時に復職，83年　同取締役副社長
川島　和茂	1922	横浜高工	1942	○	○		1945年　大島鉄工所，46年　文化興業，55年　同工事部次長，67年　取締役
川原　隆	1922	東大	1944				1945年　川南工業，51年　日本郵船，77年　名村造船
甲木　利男	1925	横浜高工	1944				1945年　川南工業，49年　長崎工業高等学校教諭，85年　同講師
木下　昌雄	1914	東大	1937			○	1945年　東京大学工学部船舶工学科助教授（40年予備役造船大尉），46年　鉄道技術研究所，49年　日立造船技術研究所， 59年　同技術研究所長，64年　同取締役，67年　同常務取締役，73年　同取締役副社長，79年　同取締役社長
北村　源三	1917	九大	1940				1945年　播磨造船所相生工場，46年　同呉船渠救難解体課救難主任，48年　同造船課作業主任，50年　NBC呉造船部企画課長， 54年　協成汽船取締役会長
木下　共武	1917	九大	1941				1945年　鉄道技術研究所，48年　佐世保船舶工業，59年　同佐世保造船所造船部長，64年　同取締役副所長，66年　常務取締役 所長，74年　専務取締役，76年　代表取締役・専務取締役
菊池　一郎	1915	横浜高工	1936		○		1945年　播磨造船所，49年　浦賀船渠，50年　同浦賀作業部（横須賀米海軍基地）主任，53年　同溶接課長，58年　同横浜工場長
北村　修	1921	東大	1943				1945年　播磨造船所，47年　オリオン商会設立，56年　北村修国際特許事務所開設，83年　発明振興協会理事
木村　弘	1924	大阪工専	1944	○			1945年　三保造船所，71年　同工作部長，75年　同東京事務所長，79年　同取締役，85年　同常務取締役
蔵田　雅彦	1913	阪大	1936				1945年　東日本造船（北海道江差町），48年　室蘭造船所，51年　函館ドック（設計課）
倉敷　肇	1918	横浜高工	1939	○		○	1945年　三井造船玉野造船所造船工作課（42年復職），59年　同造船工作部検査課長，62年　同鉄構部長，65年　同本社橋梁鉄構部長， 70年　同鉄構運搬機事業部長
久保　正造	1921	横浜高工	1941	○			1945年　運輸省鉄道総局船舶課復職，50年　石川島重工業造船部，61年　石川島播磨重工業産業機械事業本部
黒沢　千利	1922	横浜高工	1942	○		○	1948年　石川島重工業，69年　石川島播磨重工業船舶事業部第一生産管理部長，76年　アイ・エイチ・アイ・クラフト代表取締役社長， 81年　韓国大宇造船工業技術顧問，83年　リクルート人材センターコンサルタント
○桑山　則男	1920	東大	1944				1946年　高知造船造船課長，49年　海上保安庁，52年　運輸省船舶局船舶検査官，62年　九州海運局長崎支局長， 64年　科学技術庁航空宇宙課長，66年　住友金属工業大阪本社技術部，74年　同東京技術部長，77年　住友溶接工業専務取締役
黒田　良治	1924	横浜高工	1943	○			1946年　造船木工業勤務，51年　同自営，56年　運輸省，62年　東洋建設船舶機械部
小岩　健	1899	東大	1924				1945年　山田工作場（横浜），51年　横浜工作所，59年　運輸省第二港湾建設局横浜工場
近藤　忠夫	1904	東大	1930				呉造船所，設計担当役員
小見川　信	1910	東大	1933		○		1949年　みさき産業設立，代表取締役社長
小平　清秀	1916	阪大	1940				不明
小林　勝二	1916	東大	1941				1945年　日本鋼管鶴見造船所，64年　同清水造船所，66年　日本鋼管工事
小宮山　隆三	1918	横浜高工	1940				1946年　長野県警察部嘱託（通訳事務），新潟医科大学入学，50年　長野赤十字病院，51年　慶應義塾大学医学部助手， 54年　日本赤十字社，55年　都立大久保病院産婦人科，57年　長野県小県郡長門町立病院産婦人科医長，60年　狭山市中央病院副院長

表３－３　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
甲佐　泰彦	1918	阪大	1942	○			1946年　日立造船因島工場，復員後復職，64年　同向島工場工務部長，65年　舞鶴重工業出向，69年　日立造船理事 72年　同因島工場長，73年　取締役（桜島工場長），77年　同常務取締役，78年　内海造船取締役社長
小谷　淳	1921	東大	1944	○			1945年　日本鋼管鶴見造船所造船部，72年　同重工本部パイプライン部長，76年　取締役，80年　技監
小林　三郎	1924	横浜高工	1944	○			1946年　舞鶴重工業，66年　同艦艇設計課長，71年　日立造船舞鶴工場艦艇設計課長，同造船部副部長，76年　同船舶事業本部艦艇兵器営業部長
桜井　清彦	1918	東大	1940				1945年　石川島重工業，57年　同造船部長，61年　同船舶事業部管理部長，63年　ジュロン造船所取締役社長， 71年　ジュロン・エンジニアリング取締役社長，80年　帰国，石川島造船化工機取締役社長，96年（海軍）造船会会長
崎田　高定	1916	九大	1940				1945年　佐世保海軍工廠残務処理，47年　山領造船（50年まで），55年　海上自衛隊（三等海佐），74年　ムサシノ機器製作所
沢田　俊光	1918	東大	1943				1945年　日本鋼管鶴見造船所造船部，55年　同艤装部造船艤装課長，57年　同本社造船営業部技術調査課長，59年　同プラント部課長，63年　同鶴見造船所技術管理部長，66年　佐世保重工業本社技術部長（出向），68年　日本鋼管鶴見造船所副所長，72年　函館ドック常務取締役（出向），79年　函館ドック建設取締役社長
佐藤　荘次	1922	横浜高工	1942	○		○	1945年　播磨造船所（42年入社，44年短現より復職），74年　石川島播磨重工業船舶事業部船舶修理営業室長， 81年　アイ・エイチ・アイ・マリン常務取締役
坂本　良一	1924	横浜高工	1943	○			1947年　東洋電極工業，58年　八幡溶接棒（会社合併），70年　日鉄溶接工業（会社合併）販売総括部長，77年　同取締役販売管理部長， 81年　同常務取締役，87年　ヨーユー専務取締役
塩山　策一	1901	東大	1925				1946年　飯野海運産業，62年　飯野重工業常務取締役退任，70年　三保造船所退社，その他三菱重工業本社船舶事業本部嘱託，東海大学海洋工学部造船科講師
○篠田米三郎	1912	東大	1936				1947年　名機製作所，72年　篠田国際特許事務所所長
下野　誠兒	1917	東大	1940				1947年　旭海運，64年　同海務部長，工務部長，70年　取締役，72年　常務取締役
塩沢　岩根	1916	東大	1940				1945年　佐野屋組鉄工部（工場長），47年　佐野屋鉄工所専務取締役，60年　同代表取締役社長
清水　澄	1919	東大	1941				1945年　日本鋼管，65年　同鶴見造船所副所長，69年　同津造船所長，72年　同取締役船舶本部船舶部長， 76年　同常務取締役造船事業部副事業部長，77年　同鶴見造船所長，80年　横浜ヨット代表取締役社長
清水　龍男	1916	阪大	1941				1945年　小柳造船所，46年　日本造船，48年　東造船，58年　大洋漁業船舶部，65年　同船舶部長，68年　佐世保重工業取締役， 81年　谷特許事務所
下川　栄一	1920	東大	1942				1945年　鉄道技術研究所，48年　川崎重工業
篠田　仁吉	1921	東大	1943				1945年　鉄道技術研究所嘱託，56年　同連絡船研究室，72年　日本大学生産工学部教授
進藤　洋三	1922	横浜高工	1942	○		○	1946年　明楽工業，48年　佐世保船舶工業，同ニューヨーク事務所長，同資材部長
白谷　太平	1921	東大	1944				1945年　名古屋造船，54年　同造船部船殻課長，61年　同造船部長，63年　同修繕艤装部長，64年　石川島播磨重工業名古屋造船所修繕艤装部長，66年　同運転調整部長，68年　同名古屋造船所長，79年　東海ドレッジャー代表取締役
島田　博之	1922	九大	1944	○			1945年　三菱重工業，復員と同時に復職，61年　同長崎造船所造船設計部艦艇設計課長，71年　同第二造船設計部長， 72年　同造船管理部長，75年　同技師長，78年　熊本工業大学教授
◎白井　実	1910	横浜高工	1933				1945年　石川島重工業，46年　造船艤装工場課長，明楽工業，48年　明楽工業札幌出張所資材課長，49年　南国特殊造船王子工場， 53年　日立造船神奈川工場（舟艇課長），64年　白井国際産業
鈴木　春夫	1917	阪大	1941	○	○		1945年　電波局航空保安部，46年　海運総局船舶局造船課，57年　防衛庁装備局船舶課長，61年　運輸省船舶局原子力船管理官， 62年　同造船課長，64年　海上保安庁第二管区海上保安本部長，67年　科学技術庁科学審議官，70年　宇宙開発事業団理事， 77年　同副理事長，81年　三菱電機顧問
須藤　彰一	1922	横浜高工	1943	○			1950年　日立造船技術研究所，67年　同第二研究室専門課長，71年　明石船型研究所出向，76年　転籍
関　雄次郎	1912	東大	1938	○		○	1947年　大洋漁業，63年　同取締役船舶部長，64年　大洋商船常務取締役，75年　ローレル社副社長
関根　通男	1924	横浜高工	1944				1945年　日本鋼管鶴見造船所
玉崎　坦	1899	東大	1925				1947年　山崎鉄工，48年　文化興業，50年　名古屋造船常務取締役，52年　太平洋開発，53年　日本鋼管嘱託， 62年　日本技術協力南ベトナム派遣技術顧問団副団長，64年　東京理科大学講師，65年　マレーシア国サラワク州海運局
橘　弘毅	1914	東大	1938				1945年　旭造船，49年　館山造船，50年　American Bureau of Shipping，64年　同Senior Surveyor，66年　同Principal Surveyor， 79年　同Technical Representative
田中　輝男	1913	東大	1939				1946年　播磨造船所，52年　ＮＢＣ呉造船部（船殻課長，業務部長），62年　呉造船取締役，68年　石川島播磨重工業理事， 72年　海祥海運代表取締役
竹内　晃	1918	東大	1941				1945年　日本鋼管鶴見造船所，46年　同溶接係長，59年　同技術管理課長，64年　同管理部長，67年　同副所長，72年　同津造船所長， 78年　同専務取締役（造船事業部長），同代表取締役副社長
高柳　武男	1919	東大	1941	○			1945年　三井造船玉野造船所，復員と同時に復職，57年　同造船設計部船殻設計課長，59年　同艤装設計課長，62年　同船舶設計部長 65年　同本社船舶基本設計部長，74年　同取締役千葉造船所所長，80年　日本海重工業代表取締役社長，88年　船舶技術協会代表取締役
但馬　利夫	1918	横浜高工	1940				1945年　石川島重工業，46年　明楽工業（資材課長），49年　東日本重工業，62年三菱日本重工業横浜造船所検査課長， 68年　三菱重工業横浜造船所船体艤装工場長，68年　同本社船舶業務部主務，75年　日本高圧力技術協会事務局長

表３－４　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
○高田　健	1918	東大	1943				1948年　海運総局船舶局賠償課，50年　海上保安庁第三管区海上保安本部，52年　運輸省船舶局船舶検査官室，62年　同原子力船管理官，65年　海上保安庁船舶技術部技術課長，70年　日本造船研究協会常務理事研究部長，74年　日本小型船舶検査機構理事
垂水　保之	1920	東大	1943				1946年　南国特殊造船，50年　東日本重工業横浜造船所，72年　三菱重工業横浜造船所船舶業務部長，74年　同企画部長，75年　同副所長，77年　三菱重工千代田タンクエンジニアリング代表取締役社長
田代　雄二郎	1921	阪大	1943	○			1946年　日本鋼管造船部門，63年　同英国駐在（70年まで），75年　同英国駐在（79年まで），79年　函館ドック取締役副社長，82年　同代表取締役社長
高橋　正郎	1919	東大	1943	○			1945年　三井造船玉野造船所，67年　同千葉造船所造船工場長代理，68年　日本海重工業船舶事業部取締役工作部長，74年　同常務取締役，81年　日海システムエンジニアリング取締役副社長，83年　同取締役社長
田中　章	1921	阪大	1943	○			1945年　三菱重工業神戸造船所，復員と同時に復職，71年　同船舶営業部船舶サービス主査
高木　敬太郎	1923	横浜高工	1942	○	○		1945年　石川島重工業，復員と同時に復職，50年　同造船設計部基本設計課第一計画主任，53年　同造船設計部艦艇基本設計課長，60年　石川島播磨重工業技術本部開発部開発３課長，64年　同技術本部開発部長，65年　同船舶事業本部原子力船部長，70年　同化工機事業部原子力プロジェクト部長，81年　石川島プラント建設取締役原子力プラント室長
瀧澤　宗人	1922	横浜高工	1942	○			1945年　三井造船玉野工場，復員と同時に復職，72年　同千葉造船工場長，74年　同玉野鉄構海洋工場長，79年　同千葉事業所長，80年　同取締役，82年　常務取締役
竹下　宗夫	1923	東大	1944	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，67年　三菱造船下関造船所造船部長，74年　新山本造船所出向，79年　下関菱重エンジニアリング代表取締役，84年　長崎総合科学大学非常勤講師
田中　利夫	1923	大阪工専	1944				1946年　大阪大学工学部機械工学科入学，49年　日立造船
谷本　喜一	1924	大阪工専	1944	○			1949年　京都大学理学部卒業，55年　同工学部土木工学科講師，57年　神戸大学工学部助教授
立川　義治	1898	技養	1922				1945年　日本鋼管鶴見造船所，48年　同本社，56年　同浅野船渠，59年　日本エンジニアリング嘱託
長　徳重	1917	九大	1941				1945年　小堀製作所，50年　同代表取締役社長，77年　工業連合福岡県鉄構工業会理事長
鶴田　龍夫	1916	東大	1941				1946年　復員，農業，51年　石川島重工業，60年　同艦艇建造部長，67年　同第２工場副工場長，69年　照国海運取締役工務部長，76年　中国塗料取締役
筒井　為雄	1918	阪大	1941				1948年　名村造船，53年　保安庁海上警備隊，55年　防衛庁技術研究所，66年　同技術研究本部技術開発官付船舶第３設計班長，71年　同調達実施本部神戸駐在官事務所長，72年　同技術研究本部副技術開発官（船舶担当）
寺田　明	1911	東大	1935				1945年　日本土木造船造船課長，47年　稲石鉄工所，51年　Ｒ・Ｊ・デルパン，52年　保安庁第２幕僚監部技術部，60年　新三菱重工業神戸造船所長付，70年　三菱重工業本社技術部顧問，79年　寺田船舶コンサルタント事務所
遠山　光一	1908	東大	1932				1945年　日本鋼管鶴見造船所造船設計部，59年　同取締役，61年　同鶴見造船所長，62年　常務取締役，66年　同造船本部長，67年　同専務取締役，68年　同副社長
遠山　嘉雄	1911	東大	1934				1945年　第２復員省，46年　藤永田造船所企画課長，50年　同東京事務所付，61年　同本社営業部長，67年　三井造船
富　敦治	1914	阪大	1938	○		○	1945年　三菱重工業神戸造船所（38年入社，第１期短現），53年　新三菱重工業神戸造船所企画課長，61年　同船舶営業部長，69年　三菱重工業神戸造船所副長，72年　同下関造船所所長，73年　同取締役神戸造船所長，74年　笠戸船渠専務取締役，79年　同取締役社長
○徳永陽一郎	1919	九大	1942	○			1945年　川南工業香焼島造船所造船設計課，48年　同整備工場長代理，50年　海上保安庁船舶技術部造船課基本計画班，68年　同船舶技術部技術課長，71年　同第八管区海上保安本部長，73年　海上保安庁船舶技術部長，76年　日本造船学会事務局長
冨岡　達夫	1921	横浜高工	1941				1946年　日本造船，49年　昭和造船車輌造船部，54年　横浜ヨット，63年　千代田グラビヤ，82年　東部工業設立，代表取締役
冨田　哲治郎	1921	東大	1943	○			1945年　三井造船，復員と同時に復職，船舶基本設計，ホーバークラフト，高速艇の開発，取締役，81年　四国ドック顧問，86年　ミカド企画代表取締役
中村　常雄	1910	東大	1934				1945年　横須賀駐在米軍Fleet Activities, Public Works，47年　佐世保船舶工業，57年　同取締役，60年　同常務取締役，66年　同専務取締役，72年　佐世保重工業取締役社長
中島　宣彦	1915	東大	1938				1948年　弁理士登録
中田　富次郎	1914	東大	1939				1946年　林兼造船，77年　同代表取締役副社長
中川　勉	1915	東大	1939	○			1947年　舶用鋳鋼協会専務理事，54年　大洋鋼業設立，取締役社長，55年　光洋製鎖取締役（兼務）
中瀬　大一	1917	東大	1940	○		○	1945年　三菱重工業長崎造船所（42年短現より復職），51年　西日本重工業下関造船所，54年　三菱造船長崎造船所，63年　同長崎造船所艦艇設計部長，66年　同造船設計部長，72年　三菱重工業横浜造船所技師長，75年　三保造船所専務取締役
永井　一夫	1916	東大	1941	○		○	1945年　三井造船（41年短現より復職），66年　取締役千葉造船所所長，69年　同玉野造船所所長，74年　同常務取締役，79年　三井造船エンジニアリング取締役社長
中原　敬介	1918	東大	1942				1945年　播磨造船所，46年　同呉船渠救難解体係，52年　NBC呉造船部技術部溶接課長，57年　同技術部次長，68年　石川島播磨重工業船舶事業部技術開発部長，73年　富士機械工業安浦工場長

表３－５　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
中村　貴憲	1920	東大	1942	○			1945年　三菱重工業神戸造船所，復員と同時に復職，67年　新三菱重工業神戸造船所造船設計部長，73年　三菱重工業神戸造船所技師長，77年　横浜国立大学工学部造船工学科教授
中山　嘉彦	1917	横浜高工	1941	○			1945年　ミナト製作所企画課長，50年　同取締役工場長，55年　ヘルス自動車取締役製造部長，60年　京葉商工設立，代表取締役
仲佐　洋三	1921	東大	1943				1946年　旭造船勝浦造船所，48年　東北船渠，50年　東日本重工業横浜造船所，70年　三菱重工業広島造船所，78年　海洋鉄工協会
中西　哲一郎	1921	東大	1943				1945年　岩手県軍政部通訳，47年　ＧＨＱ天然資源局技術顧問，49年　日立造船，52年　同外国船営業部，54年　同因島工場検査課，56年　同原子力調査室，62年　同原子力課長，80年　インターナショナル・マリーン・コンサルタンツ設立，代表取締役社長
中井　孝	1918	東大	1944				1945年　日本鋼管鶴見造船所，49年　同本社営業部第一課，52年　同鶴見造船所溶接係長，61年　同本社船舶営業部外国船課長，船舶部外国船営業部長，船舶部部長，73年　昭和海運常務取締役，79年　昭和ライン・エンジニヤリング取締役社長（兼任）
中村　幹雄	1921	東大	1944				1946年　日本鋼管鶴見造船所，56年　同清水造船所，62年　日本鋼管工事橋梁部，76年　東北造船，82年　日本鋼管プロジェクト部
中神　凡夫	1924	大阪工専	1944				1948年　北海道小樽水産高等学校，66年　北海道高等学校教職員組合中央執行副委員長，70年　同中央執行委員長，85年　北海道高等学校教職員センター付属教育研究所所長
○庭田　尚三	1889	東大	1915				1947年　瀬戸内造船創設，玉野工務所創設
西田　正典	1912	九大	1937				1949年　日立造船向島工場造船課，60年　同工務部長，64年　同向島工場長，67年　同取締役陸機事業本部プラント事業部長，69年　同取締役建設計画室長，76年　近畿造船協議会専務理事
丹羽　誠一	1913	東大	1938	○	○		1946年　南国特殊造船，53年　防衛庁海上自衛隊，66年　同技術研究本部技術開発官付主任研究官，70年　舟艇協会常務理事
仁瓶　廉三	1918	東大	1941				1947年　日共組，京浜梱包交通専務取締役，54年　川崎重工業，59年　同潜水艦部船体設計課長，63年　同潜水艦部長，68年　同船舶事業本部副事業部長，71年　同専務取締役，80年　同取締役副社長
新倉　岩次郎	1903	技養	1927				1950年　新倉工業創立，代表取締役社長，66年　日本舶用工業会理事，71年　福島新倉工業代表取締役社長
根本　広太郎	1923	東大	1944	○			1945年　播磨造船所，復員と同時に復職（44年入社），70年　石川島播磨重工業取締役，74年　同常務取締役船舶事業本部長81年　同取締役副社長
畑　敏男	1895	東大	1920			○	1946年　ボルネオより帰国，55年　宝工業社設立，57年　海底資源開発
馬場　清一郎	1909	九大	1933				1946年　明楽工業，49年　日立造船因島工場造船部，53年　同神奈川工場造船課長，60年　同管理課長
埴田　清勝	1912	東大	1935				1948年　日本鋼管，60年　同鶴見造船所副所長，61年　同造船営業部長，64年　船舶部長（取締役），67年　同常務取締役，70年　船舶本部長（専務取締役），73年　同代表取締役副社長（造船事業部長）
橋本　啓介	1909	東大	1935		○		1948年　SRF（横須賀米海軍基地艦船修理部），60年　飯野重工業，62年　関東学院大学工学部教授
○浜野　和夫	1916	東大	1938				1946年　鉄道技術研究所嘱託，49年　藤永田造船，63年　同取締役，67年　三井造船取締役藤永田造船所長
橋本　香一	1919	東大	1941		○		1945年　鉄道技術研究所，55年　国鉄宇高船舶管理部次長，62年　同青函船舶管理部長，66年　鉄道技術研究所鉄構造研究室長，68年　日本構造物設計事務所常務取締役技師長，72年　住友重機械工業技師長，77年　大同工業大学建設工学科教授
原　紀	1918	九大	1941	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，70年　同修繕部長，72年　同企画部長，73年　同下関造船所副所長，75年　九州菱重冷機代表取締役社長
橋本　敏郎	1920	東大	1942				1945年　鉄道技術研究所嘱託，48年　石川島重工業，53年　同造船部船殻第一工場課長，57年　同造船部船殻第二工場課長，61年　石川島播磨重工業東京第二工場船殻工作部長，66年　同海外事業本部副本部長，76年　同取締役
馬場　義輔	1921	東大	1942				1946年　日本造船，49年　昭和造船車輌課長，51年　富士造船車輌取締役，55年　防衛庁海上幕僚監部技術部，58年　同技術研究本部技術開発官付，63年　同海上幕僚監部技術部艦船課，75年　日本鋼管調査役，83年　防衛技術協会参与
橋本　隆年	1919	九大	1942	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，59年　三菱造船長崎造船所船殻工作部外業工場長，68年　三菱重工業長崎造船所船殻工作部長，72年　同長崎造船所副所長，77年　同取締役船舶事業本部副事業本部長，82年　常務取締役船舶鉄構事業本部長
春永　盛生	1920	東大	1943	○			1945年　三菱重工業，復員と同時に復職，46年　九州造船，47年　運輸省，69年　日本船舶輸出組合常務理事，72年　船舶整備公団理事，78年　日本小型船舶相互保険組合理事長
長谷川　正	1921	東大	1944				1945年　浦賀船渠，55年　同外業部新船課船体係長，57年　同艦艇部艦艇課長，62年　鉄構部鉄構課長，64年　呉造船所，68年　石川島播磨重工業呉造船所修理部副部長，70年　同呉新宮工場検査部長，79年　石川島検査計測技術部長
浜崎　周作	1921	九大	1944				1945年　川南工業香焼島造船所，52年　日立造船因島工場，64年　同神奈川工場造船課長，72年　同向島工場修繕部長75年　兼松江商出向（瀬戸内造船工場長）
橋本　裕起	1924	大阪工専	1944				1949年　日立造船設計部造船設計課，52年　同桜島工場，82年　ニチゾウ陸機設計
広幡　増弥	1903	東大	1927				1945年　ブラッシュ・ブラザーズ・ガレージ共同経営（51年まで），51年　浦賀船渠，57年　同第一営業部長，63年　同船舶事業部艦艇営業部長，66年　船舶整備公団参与
船越　卓	1908	東大	1932				1945年　復員官，大蔵省監理官，48年　横浜工作所取締役，58年　設計会社社長，61年　ＩＨＩクラフト監査役，取締役工場長，68年　舟艇協会理事
福井　経彦	1909	九大	1934		○		1945年　中央水産業会主事，47年　東京化工常務取締役，49年　東造船造船部長，65年　林兼造船取締役

表３－６　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
藤本　正	1918	東大	1940				1955年　米国船級協会（84年退社）
深水　正保	1918	阪大	1941	○			1945年　横河橋梁製作所，61年　橋梁設計事務所
藤野　宏	1922	東大	1943				1945年　石川島重工業，46年　明楽工業，47年　同品川工場長，48年　池上製作所工務課長，49年　日立造船，60年　同船舶営業部業務課長，62年　同船舶営業部新造船課長，67年　同船舶事業本部第一国内船営業部長，73年　日立造船シー・ビーアイ取締役副社長（出向，76年より専任），83年　山和商船取締役副社長，89年　ジェイ・アイ・シー・エス代表取締役社長
福田　淳一	1920	九大	1943	○			1946年　九大工学部講師（造船学科），47年　同助教授，67年　同教授，84年　三菱重工業長崎造船所常勤顧問
布施　秀三	1921	阪大	1944				1945年　旭造船，49年　藤永田造船所，68年　三井造船千葉鉄構工場長，72年　同玉野鉄構運搬機工場長，77年　同鉄構土木事業部副事業部長，80年　三井造船鉄構工事専務取締役，83年　同取締役社長
本田　脩三	1923	横浜高工	1943	○			1945年　日立造船因島工場，復員と同時に復職，68年　同造船設計課長，77年　内海造船取締役設計部長，83年　同常勤監査役
松田　良雄	1898	東大	1923				1945年　宇品造船，50年　水道工事会社，55年　防衛庁嘱託，65年　某社（神戸），69年　松田工業
松下　雄一	1913	東大	1939	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，52年　三菱造船長崎造船所造船設計部船殻設計課長，56年　同造船設計部生産設計課長，57年　同船殻工作部内業工場長，59年　同下関造船所設計部造船設計課長，61年　同舟艇部工作課長，65年　三菱重工業本社船舶技術部調査役，70年　山丸本社参与
○松村　杲	1923	横浜高工	1944	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，46年　第二復員省，半田金属工業，48年　中央ゴム，57年　栗田工業取締役設計本部長，74年　栗田整備常務取締役，85年　松村技術士事務所開設
◎牧山　幸弥	1911	東大	1935				1945年　中央水産業会資材部漁船課，48年　運輸省関東海運局船舶部造船課，49年　海上保安庁長官官房技術課，53年　保安庁技術研究所第五部長，57年　防衛大学校教授
溝口　三雄	1903	九大	1930		○		1946年　大島産業，51年　日本温湿科学研究所創立，56年　日本温湿科学研究所代表取締役社長，86年　同取締役
三嶋　忠雄	1907	東大	1932				1945年　天野興業，50年　長崎農産化工工場長，53年　西重機械加工組合フランジ工場長，56年　深堀造船所，65年　大洋造船所所長，67年　大長崎建設専務取締役
南　一枝	1913	東大	1938	○			1945年　日立造船桜島工場（38年造船工作課入社），57年　同造船部長，64年　同因島工場長，67年　同取締役（堺工場長），69年　同船舶事業本部副本部長
宮下　義一	1918	東大	1942	○			1948年　日立造船桜島工場造船課，56年　同修繕課長，60年　同神奈川工場造船課長，64年　同船舶部長，71年　同理事，72年　同神奈川工場長，77年　富岡機械製作所取締役社長
村上　外雄	1908	東大	1931				1945年　石川島重工業東京第二工場造船部設計課長，50年　同東京第二工場造船設計部長，56年　同取締役技術本部技術副長，58年　同東京第二工場長，60年　石川島播磨重工業理事船舶事業部副事業部長，65年　日本舟艇振興会理事長，70年　石川島播磨重工業理事船舶営業本部副本部長，74年　アイエイチアイクラフト取締役社長，84年　造船会会長
村田　章	1916	東大	1940				1947年　日本鋼管，69年　同清水造船所所長，72年　佐世保重工業造船所長，76年　同代表取締役社長
村上　正孝	1920	東大	1942				1945年　播磨造船所，52年　ＮＢＣ呉造船部，62年　呉造船所，73年　波止浜造船，78年　西日本設計
村上　元夫	1918	九大	1943				1946年　林兼造船，57年　同造船設計課長，64年　同取締役造船設計部長，71年　取締役下関造船所副所長，74年　同常務取締役下関造船所長，79年　同常勤顧問
椋本　栄太郎	1924	大阪工専	1944	○			1945年　播磨造船所，復員と同時に復職，73年　石川島播磨重工業知多工場長，77年　同船舶事業部副事業部長，78年　同相生事業所長，80年　同知多事業部長，82年　播磨生活協同組合組合長
諸岡　篤	1908	東大	1933				1946年　佐世保船舶工業，47年　川南工業作業部長，伊万里湾重工業取締役，55年　三保造船所東京事務所長，58年　同取締役
森　健四郎	1920	東大	1944				1949年　日立造船因島工場，66年　同船殻内業課長，69年　田熊造船出向，72年　内海造船出向，73年　日立造船技術開発本部技監，75年　今井造船転籍
元良　誠三	1922	東大	1944				1945年　東京帝国大学，復員と同時に復職，47年　東京大学助教授，63年　東京大学教授（船舶工学第５講座担当），81年　日本造船学会会長，82年　長崎総合科学大学学長，85年　日本造船振興財団理事
○森山　悦郎	1922	阪大	1944	○			1946年　海事協会，49年　日立造船桜島工場造船課，64年　同検査課長，66年　同堺工場船舶部作業課長，68年　舞鶴重工業出向，71年　日立造船舞鶴工場技監部長，75年　同技術開発本部技術部長，77年　同理事，80年　日立造船非破壊検査顧問
山口　宗夫	1907	九大	1930				1952年　三菱造船，62年　同技術部長，65年　三菱重工業取締役船舶事業部副事業部長
矢野　鎮雄	1912	九大	1935		○		1945年　函館ドック，64年　呉造船所，68年　石川島播磨重工業，のち代表取締役副社長，77年　臼杵鉄工代表取締役社長，78年　石川島建材代表取締役社長
安野　竹三	1917	東大	1941				1945年　東北船渠，53年　海上自衛隊，67年　ロイド船級協会，85年　東洋工学専門学校
山脇　正輔	1917	阪大	1942	○			1945年　三菱重工業横浜造船所造船部，復員と同時に復職，51年　東日本重工業横浜造船所艤装部係長，56年　三菱日本重工業横浜造船所修繕部課長，58年　同艤装部課長，66年　三菱重工業横浜造船所造船部次長，72年　同鉄構部長，75年　三菱重工工事横浜支社長
山内　保文	1919	東大	1943				1945年　播磨造船所，46年　鉄道技術研究所第７部，48年　運輸省運輸技官，49年　鉄道技術研究所連絡船研究室，50年　同運輸技術研究所船舶性能部運輸技官，62年　運輸技術研究所船舶性能部長，63年　船舶技術研究所運動性能部長，72年　同所長，73年　三井造船理事技術本部副本部長，81年　日本大学理工学部講師

表３－７　戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
山形　聡	1922	九大	1943				1945年　小柳造船所，51年　佐世保船舶工業，55年　同造修部船渠課長，57年　同造船部作業課長，59年　同艦艇設計部造船課長，63年　佐世保重工業艦艇部次長，66年　同艦艇部長兼造船課長兼造機課長，78年　艦艇技術サービス
山下　龍雄	1920	東大	1943	○			1947年　南国特殊造船，52年　海上自衛隊，72年　日立造船嘱託，80年　大機ゴム工業顧問
由利　健一	1919	東大	1943	○			1945年　播磨造船所相生工場，復員と同時に復職，46年　同呉船渠，52年　NBC呉造船部溶接係長，内業課長，62年　呉造船所技術開発室長，68年　石川島播磨重工業船舶事業本部工作技術開発室
吉田　隆	1912	九大	1936				1945年　日本造船設計課長，50年　アメリカ船級協会検査員，52年　飯野産業技術課長，56年　飯野重工業造船部次長，62年　舞鶴重工業艦艇兵器部長，67年　同艦艇兵器部長代理，70年　日立造船常勤嘱託
吉橋　保治	1914	東大	1938	○		○	1948年　三菱重工業横浜造船所造船工作部艤装工場長，58年　三菱日本重工業横浜造船所工務課長，61年　同艤装工作部長，62年　同造船工作部長，65年　三菱重工業広島造船所造船工作部長，72年　同横浜造船所所長，73年　同取締役，77年　三菱重工業環境エンジニアリング取締役社長
吉田　兎四郎	1915	東大	1940	○		○	1942年　三菱重工業江南造船所（短現より復帰），46年　同横浜造船所造船工作部，64年　同鉄構部長，71年　石井鉄工所常務取締役技術部長，90年　日本エンジニアリング取締役
米田　義男	1918	東大	1941				1946年　播磨造船所，48年　石川島重工業，64年　石川島播磨重工業東京第二工場艦船建造部長，71年　同マリンコンサルタント事業部管理部長，77年　山西造船鉄工所
吉成　正	1916	東大	1939	○		○	1945年　日本郵船工務部復社，船舶運営会出向（49年まで），69年　太平洋汽船常務取締役
横山　春樹	1918	東大	1941	○		○	1945年　出雲造船，47年　中村造船鉄工所，50年　邨田印刷紙器，83年　同取締役社長
横山　信立	1918	東大	1942				1945年　舞鶴工廠監理部，46年　運輸省鉄道総局船舶課，52年　水産庁生産部漁船研究室，61年　同漁船研究室長，69年　東海大学海洋学部教授，85年　同学部長
吉武　有真	1921	阪大	1943	○			1945年　大阪商船，復員と同時に復職，47年　山口県庁建築課，58年　運輸省運輸技官（九州海運局船舶部），69年　日本海事協会
横田　健	1921	東大	1944				1945年　播磨造船所，64年　石川島播磨重工業相生造船所第一工場長，67年　同横浜造船所第二工場長，69年　同船舶事業本部副本部長，70年　同陸上担当に転身
米倉　邦彦	1923	東大	1944	○			1945年　三菱重工業長崎造船所，復員と同時に復職，64年　同本社（船舶設計），72年　同長崎造船所（船舶設計），78年　同下関造船所長，82年　同取締役造船事業本部副本部長，85年　同常務取締役化学プラント事業本部長
吉川　次郎	1921	阪大	1944	○			1945年　三井造船玉野造船所，復員と同時に復職，46年　佐世保船舶工業出向，47年　三井造船玉野造船所復職，66年　同造船工場検査部長，68年　同艤装部長，70年　同船殻工作部長，72年　四国ドック常務取締役
養王田　正夫	1923	横浜高工	1944				1945年　日本鋼管鶴見造船所，69年　同津造船所，72年　函館ドック出向，75年　日本鋼管，78年　東京シャーリング
吉村　治	1925	大阪工専	1944	○			1945年　近畿日本鉄道，57年　同検車課長，60年　同車輌工場課長，66年　同工機部長，72年　労務部長，82年　新・都ホテル専務取締役・総支配人
若松　守朋	1916	東大	1939				1945年　復員局復員官，46年　播磨造船所呉船渠，51年　NBC呉造船部資材課長，53年　浦賀船渠設計部副部長，58年　同設計部長，63年　日本アルゴンクイン取締役社長，86年　日本ハイヒート取締役会長
渡辺　英一	1916	東大	1940				1950年　佐世保重工業東京本社技術部，55年　防衛庁海上自衛隊，技術研究本部，70年　佐世保重工業佐世保造船所顧問
和田　猪一	1916	東大	1941				1945年　日本造船，49年　海上保安庁海上保安官，52年　防衛庁海上警備官，69年　住友商事
和田　壽	1921	九大	1943				1945年　播磨造船所，同呉船渠，54年　呉造船所，68年 石川島播磨重工業船舶事業本部外国船営業部長，69年　同ニューヨーク事務所長，72年　同船舶営業本部副本部長，79年　臼杵鉄工所管財人，81年　東京セールス代表取締役社長
和田　稔	1919	東大	1943	○			1945年　川崎重工業泉州工場，復員と同時に復職，49年　同神戸工場，52年　同造船設計部資材掛長，58年　同資材部課長，62年　伊藤忠商事出向，68年　川崎重工業神戸工場アフターサービス部長，70年　同艦艇営業部長兼海洋機器営業部長

Materials on the Trajectory of Former Naval Shipbuilding Officers in the Postwar Period

Minoru Sawai

Naval shipbuilding officers played a decisive role in the building of naval vessels. Naval shipbuilding officers were divided into the technical officers (Bukan) and naval engineers (Bunkan). In 1938, the short active duty system was introduced in response to a large demand for engineers in war period, under which university or college graduates who found their jobs in the private ship building companies, etc., were called up as the technical officers in principle for two years, then come back to the original jobs after naval service. By means of the introduction of this system, the number of technical officers rapidly increased. In 1939, it became possible to convert from the naval engineers to the technical officers.

At the end of the Pacific War, 522 naval shipbuilding officers were charge of building and repair works of naval vessels, of which 350 were technical officers, 168 were naval engineers, four were non-regular staff. Following tables show the trajectory of these former naval shipbuilding officers in the postwar years. Ex-naval shipbuilding officers experienced severe conversion from military related sectors to the private sectors. Following tables would help consider the significance of technical "legacy" to the postwar period.